

049559-000-2

特51-386

陸軍中央幼年学校予科地方幼年学校入学試験問題

自明治三十四年至明治四十二年

伊藤 寿一 / 編

M43

BEM-0250



自明治三十四年
至明治四十二年

陸軍

(中央幼年学校豫科
地方幼年学校)

入學試験問題集

附明治三十五年以後同業會ニ於テ施行シタル

幼年生檢定試験問題集

同業會

特51
386

自明治三十四年陸軍(中央幼年學校豫科)入學試驗問題
至明治四十二年地方幼年學校

算術
明治三十四年四月執行

- (1) 鏡、兎ト同一ノ籠ニアリ上ヨリ見レハ一百頭ニシテ下ヨリ見レハ二百五十足アリトイフ各幾頭ツ、ナルヤ(四則ニテ答解セヨ)
- (2) 戦争カワニ二百四十人ノ兵ヲ失ヒ殘兵ヲ算スルニ全員ノ五分ノ三ナリトイフ全員ノ數幾何(分數ニテ答解セヨ)

(3) 音ハ三十九秒ニシテ三里十三町半ヲ行ク今正午ノ號砲ヲ聞クニ十一里四分ノ一ノ處ニテハ何秒時費ヤスカ

理科

二時間

(1) 音ノ發生及其傳達ノ理ヲ説明セヨ

三時
明治
43. 3. 1
交

(2) 稻ニ付キテ下ノ問題ヲ答ヘヨ

(イ) 稻ノ莖花及心實ノ形狀ハ如何

(ロ) 稻ノ種蒔及熟スル季節如何

(ハ) 稻ノ種類

(ニ) 効用

(3) (イ) 蠟燭ノ燃ユル理由ヲ説明セヨ

(ロ) 其燃エテ出テタル物質ハ原蠟燭ト何レカ重キヤ

圖 畫

二時間

(1) 梯 (2) (きょうす) に (茶瓶)

讀書作文

三時間

(1) 喫煙ノ害

(2) 某軍艦ヲ見ルヲ友人ニ勸ムル文同返事

(3) 左ノ諸文章中ノ□形ノ處ニ適當ナル文字ヲ入ルヘシ。天照大神瓊々杵尊ニ位ヲ□
リ□□此ノ瑞穂國ハ□□ノ君タルヘキ所ナレハ行キテ□□寶祚ノ□ナルコト天地
ト□ナカルベシト□シテ三種ノ神器ヲ□□

地 理

(1) 與ヘラレタル日本地圖内ニ各縣郡國名ヲ記入セヨ

(2) 左ニ記載スル名稱ノ所在國名ヲ記セ

琵琶湖、諏訪湖、霞ヶ浦、八郎瀉、シンジ湖、別子銅山、霧島山、夕張岳、阿蘇山

(3) 日本ノ三大火山脈ヲ舉グ及ヒ其位置ヲ示セ

歴 史

(1) 平治ノ亂ノ顛末ヲ略記セヨ

(2) 南北朝分立ニ至リシ次第ヲ略記セヨ

(3) 寛政ノ治ヲ記セ

◎ (明治三十五年四月十六日執行)

算術

第一題

兵士アリ七百六十人ニテ一地ヲ守備スルニ各人毎日百二十發ヲ費ストシテ三十日間ノ
彈藥ヲ貯フ今二百二十人ヲ他へ派遣シ二十二萬發ヲ携帶セシムレハ殘ストコロノ彈藥
幾發ナルカ又殘ル人員ニテ前ト同シ割合ニ殘リノ彈藥ヲ費ストキハ幾日ヲ支フヘキ
カ

(第一日午前
三題三時間)

四

第二題

米若干俵ヲ三人ニ分配セシニ甲ハ總數ノ五分ノ三ヲ取り乙ハ殘リノ七分ノ四ヲ取り丙
ハ又其殘リノ九分ノ四ヲ取り尙八十俵殘レリト云フ最初ノ俵數幾何

第三題

長サ二間半ノ竿ヲ直立セシニ平地上ニ於ケル影ノ長サ一間五尺アリ同時刻ニ平地ニ於
ケル影ノ長サ七十三間二尺ノ塔ノ高さ幾何

讀書

第一題 訓讀例ニ倣ヒ答解セヨ

○注意

訓讀例 我邦列聖民ヲ保ツ子ノ如ク堯舜禹湯ニ讓ラズ

少シ程經テ後正成「イザサラバ又寄手ヲタバカリテ居眠醒サン」トテ芥ヲ以テ人長ナル
人形ヲ二三十作りテ甲冑ヲ着セ兵仗ヲ持タセテ夜中ニ城ノ麓ニ置キ前ニ壘楯ヲツキ雙
べ其ノ後ニ勝リタル兵五百人ヲ交ヘテ夜ノホノボノト明ケタル霧ノ下ヨリ同時ニ関ヲ
ドツト作ル四方ノ寄手関ノ聲ヲ聞キテ「スハヤ城ノ中ヨリ打チ出デタルハ是コソ敵ノ
運ノ盡クル所ノ死ニ狂ヒヨ」トテ我先ニトゾ攻メ合ハセケル城ノ兵兼子テ工ミタルコ
トナレバ大勢ヲ近ヅクテ人形バカリヲ木蔭レニ殘シ置キテ兵ハ皆次第次第ニ城ノ上ヘ

(第一日午後
三題二時間)

五

引キ上ダ

第二題 釋義例ニ倣ヒ答解セヨ

○注意

釋義例 功名ヲ竹帛ニ垂ル

手柄ヲ立テ其名ヲ書物ニ書キ載セラント後ノ世マデ傳ヘラル

俯伏膝行敢テ仰キ見ルコトナシ

國家ノ安危休戚ニ關ス

第三題 釋義例ニ倣ヒ答解セヨ

○注意

釋義例 第二題ノ釋義例ト同シ

天朝ノ御爲ニ命ヲ抛候上ハ再ビ拜顔ノ儀ハ無ニ覺束一萬一天運強ク候ハバ采幣ヲ採テ拜
顔可仕候唯正名公行ヲ以テ天下後世ニ鄙名ヲ輝シ候ヲ以テ御覽可被下候

第二日(三十五年四月十七日)

理科

第一題

(イ) 水ヲ分析セバイカナル物質ヲ得ルカ

(ロ) 其物質ノ割合ハ幾何ナルカ

(其外通常ノ場合ニテ水ハ攝氏寒暖計ノ何度ニテ凍リ及ヒ沸騰スルカ

第二題

哺乳動物中海中ニ住ミ最モ大ナルモノ、性質状態ヲ記セ

第三題

消化器及ヒ其作用ヲ説明セヨ

圖畫

第一題

(第二日午後
二題二時間)

白及杵

第二題

燕

第三日(三十五年四月十八日)

作文

(第三日午前
三題三時間)

第一題(漢字交り文)

野外散步ノ記

第二題(通俗文)

友人ニ招魂祭ニ詣ツルヲ勸ムル文

第三題

左ノ文ヲ正シキ漢字交リ文(普通文)ニ改作セヨ但シ成ルベク各々ノ漢字ヲ挿入スヘシ

ムカシ、重巖トイウヒトガアリマシテ、イトクナキトモヨリ、ガクモンヲコノミマシ
タガ、イヘマツシカシテ、トモシビヲカウダケノ、キンセンヲモチマセンデシタカラ、
ナツノヨル、オホクノホタルヲトリテキテ、コレヲフクロニイレ、ソノヒカリデ、シ
ヨモサヲヨミマシタ

マタ孫康トイウヒトハ、フエノヨルニマドノキワニ、ユキヲツミ、コレヲトモシビニ
カエテ、ベンキヤウシタトイウコトデアリマス

地理

(第三日午後
三題二時間)

第一題

日本帝國四面ノ海洋及ヒ近隣諸國ノ名稱ヲ記セ

第二題

左ノ師團司令部ノ所在地ヲ記セ

第三題

第三師團

第四師團

第五師團

第六師團

第七師團

第八師團

第九師團

第十師團

第十一師團

第十二師團

第三題

左ノ圖ニ親潮及黒潮ノ流ル、位置ヲ記入セヨ

(編者曰ク圖ハ略ス清國韓國西比利亞樺太及日本ノ略圖ナリ)

第四日(三十五年四月十九日)

歴史

(第四日午前
三題三時間)

第一題

左ノモノニ就テ説明セヨ

一、稚郎子

二、坂上田村麿

三、壬申ノ亂

第二題

左ノモノニ就テ説明セヨ

一、源賴政

二、北條時頼

三、一向宗ノ一揆

第三題

- 一、犬公方
- 二、參勤交代
- 三、王政復古

◎（明治三十六年四月）

讀書第一題

精忠駿節ハ以テ天地ヲ動スベシ以テ鬼神ヲ感ゼシムベシ以テ萬世ノ人心ヲ鼓舞スベシ故ニ其ノ身患難ヲ蹈ミテ以テ没スト雖モ必ズ慶ヲ子孫ニ流ス此ノ理タル照然トシテ認マベカラザルガリ元弘建武ノ際ニ當テ新田羽林公義旗ヲ掲ゲテ北條氏ヲ滅シ又足利氏ト戰フ而シテ麾下熊鷹ノ志ヲ貳ツニセザル臣アリ相共ニ勳業ヲ翊贊セリ公遂ニ國家ノ爲メニ命ヲ授タルニ及ビテ則チ亦皆忠節ヲ致シテ死ス畑君ノ若キハ其ノ最モ傑出セルモノナリ

右訓讀スヘシ

讀書第二題

左ノ文章中圈點ヲ附シタル字句ノ釋義ヲナスベシ

- 一、盛衰榮枯ハ世ノ常ナリ其レニヨリテ志ヲ變ヘザルハ是亦士ノ常ナリ
- 二、承應三年備前大水出デ明曆元年飢饉ノ災アリ伯繼日夜國中ヲ巡リ撫育ニ心ヲ盡ス
- 三、如松ノ敗報明ニ達スルヤ舉朝震駭ス乃チ惟敬ヲシテ再ビ和議ヲ圖ラシム

作文

- 一、忠孝
- 二、借用ノ雜誌ヲ返却スル文
- 算術
- 一、官設鐵道ノ乘車賃上等ハ下等ノ三倍中等ハ下等ノ二倍ナリ東京ヨリ大阪マテノ中

等切符ノ代金七圓十二錢ナルトキハ上等切符ノ代金何程ナリヤ

$$二、 \left\{ \frac{5}{7} + \left(\frac{2}{3} + \frac{2}{5} - \frac{4}{9} \right) \right\} \div \frac{8}{9} = ?$$

三、兵卒一列行進ノ軍隊アリ某地點ヲ通過シ始メテヨリ十二分時間ニシテ三千二百人ヲ算セリ最初一時間ニシ此ノ軍隊全ク通過シ終リタリト云フ此ノ軍隊ノ人員若干ナルカ

歴史

- 一、聖德太子ノ事蹟ヲ舉ケヨ
- 二、桶狭間ノ戦ヲ記セ
- 三、左ノ諸項ヲ答ヘヨ
 - 1 熊襲島帥ヲ刺シタルハ誰人ナルヤ
 - 2 漢學ノ傳來セシハ何帝ノ時ナリシヤ
 - 3 平ノ將門ハ何レノ地ニ據リ謀反セシヤ

4 六波羅府ハ何レノ時代何レノ地ニ在リシヤ

5 小牧ノ戦ハ誰々ノ對戦ナルヤ

地理

- 一、左記ノ諸港ノ所在國名ヲ記セ
横濱、神戸、多度津、下ノ關、長崎、敦賀、新潟、箱館、石巻、那覇
- 二、本邦人民ノ重ナル産業ハ何々ナルカ
- 三、地球ノ球狀ナルヲ單簡ニ證セヨ

理科

- 一、重キ物體モ水中ニテハ幾分カ其重サヲ減ズト云フ之ヲ驗ス方法如何
- 二、水鐵砲ニ水ヲ吸ヒ込マセ又之ヲ遠方ニ飛バシメルノ理如何
- 三、温血動物冷血動物トハ如何其ノ二三ノ種類ヲ舉ゲヨ

◎ (明治三十七年四月)

左ノ文ノ通り假名ヲ付ケヨ例ヘバ「我が邦列聖民ヲ保ツコト子ノ如ク堯舜禹湯ニ讓ラズ」ノ如シ

凡ソ藝業ヲ修メテ極妙極善ニ至ルモノハ、特ニソクバクノ辛苦勉強ニ由リテ得ルコトナリ丹青ノ妙手、彫刻ノ名工一事一方ト雖モ空シク施サズ、コレニヨリテ次第ニ精工ヲ致スコト或ハ、天才ニモヨルベケレド畢竟學習ノ功ヲ積メルガ故ナリ、レイノルツ曰ク誰ニテモ繪事ニ長セムト欲スルモノハ、ソノ心ヲコトゴトク、コ、ニ注ギ、晨起ヨリ、臥寢ニ至ル迄絶ヘテ他念アルベカラズ、コレ繪事ノミニアラズ他ノ藝業ニ於テモマタ然リ、マタ一藝ニ卓絶セントスルモノハ學ブコトヲ欲スルトキト、欲セザルトキトヲ論ゼズ朝ニ晝ニ夜ニ常ニ工夫ヲ用ヒ遊戯セズシテ、ヒトヘニ辛苦學習スベシトイヘリ、蓋シ才ハ天ヨリ受クレドモコレヲ全フスルハ學習ノ功ニヨルコトナレバ、天才ヲ特マズシテ人力ヲ盡スベキコトナリ

左ノ文ヲ解釋セヨ

此ノ國土^{ニケト}膏ニ天産ニトミテ風光ニ美ナルノミナラズ建國ノ昔ヨリ未ダ一タビモ夷狄ノ馬蹄ニ汚サレシコトナシ

縦ヒ日ニ千卷ノ書ヲ讀ミ萬言ノ語ヲ誦ストモ所謂蛙鳴蟬噪ニ等シクシテ又何ノ益有シヤ器量ノ小ナルモノハ大膽ナル決心ト不撓不屈ノ勉力トニ由リテ之ヲ補ハザルベカラズ

作文

遠足ノ記 (漢字交リ文)

友人ニ其ノ寫眞ヲ贈ラレシコトヲ乞フ文 (書翰文)

左ノ口語ヲ文語(漢字交リ文)ニ改作セヨ但シ成ルベク多ク漢字ヲ使用スベシ

清潔ハカラダヲ丈夫ニスルタメニタイセツデアリマスカラキモノハヨゴレタルノヲ避ケ飲ミモノ食ヒモノハ腐ツテ居ナイモノヲエラミカラダハタビ、湯ヲツカツテチリホコリヲ、トラナケレバナリマセヌ、カウシテ清潔ハカラダヲ丈夫ニスルノミ

ナラズ、ヒトノ品格ヲアゲルモノデスカラ、ワカキヒトハ、ゴノ習ハシヲヤシナハ
ナクレバナリマセヌ

左ノ文句ヲ解釋セヨ

周圍廣袤 貨物運輸 行在所 傍若無人 物價騰貴 拍手喝采

從容死ニ就ク 斷岸絶壁 起居動作 餞別

算術

- 一、一列十六枚ツ、十六列ニ相隣接セル郵便切手一日ニ二枚ツ、切り取りテ使用スル
トキハ幾日ニシテ使用シ了ルカ又此郵便切手ヲ一枚ノ價ヲ二錢トスルトキハ使用
セル切手ノ價幾程ナルカ

二、左ノ式ノ値ヲ求ム

$$\left\{ (3600 \div 60) \times 100 \right\} \frac{3}{\frac{1}{4} + \frac{2}{6} + \frac{1}{3}}$$

- 三、六百九十二人ノ生徒四人ツ、一列ニ並ビ各列ニ「メートル」ヲ隔テ一分時間毎ニ八
十六「メートル」ノ速サヲ以テ長サ三百四十四「メートル」ノ橋ヲ渡ルニ最初ノ列ガ
始メテヨリ最後ノ列カ了ルマテニ幾分時間ヲ要スルカ

四、左ノ式價ヲ求ム

$$\frac{0.014608836}{1.21 \times 0.09}$$

- 五、一石五斗ノ麥ニテ六頭ノ馬ヲ五日間飼養シ得ルトセハ二石二斗五升ノ麥ニテ十
五頭ノ馬ヲ幾日間養ヒ得ルカ

六、左ノ三式中ニ最大ナルモノト最小ナルモノトノ和ヲ求ム

$$13 \div 2 \frac{1}{5} \quad 6 + \frac{1}{12} \quad 125 + \frac{1}{22}$$

歴史

第一題

左題ニ於テ説明セヨ

- 一、四道將軍
- 二、聖德太子ノ事蹟
- 三、延喜ノ治

第二題

- 一、關ヶ原ノ戰
- 二、寛政ノ治(松平定信ノ執政)
- 三、徳川幕府ノ大政奉還

地理

左ノ縣ノ縣廳所在ノ國名及ヒ地名ヲ記セ

- | | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 神奈川縣 | 埼玉縣 | 茨城縣 | 栃木縣 | 群馬縣 | 山梨縣 | 愛知縣 |
| 三重縣 | 石川縣 | 宮城縣 | 巖手縣 | 兵庫縣 | 島根縣 | 香川縣 |
| 愛媛縣 | 福岡縣 | 沖繩縣 | 大分縣 | 山口縣 | | |

◎(明治三十八年四月)

作文

- (1) 大日本帝國
- (2) 遠足ニ誘フ文 (書翰文)
- (3) 左ノ口語ヲ文語(漢字交)ニ改作セヨ 但シ成ルベク多ク漢字ヲ使用スベシ
 何萬卷ノホンヲヨミテモ、行ヒヲササメナケレバ。ナニノ益ガアリマセウカ、ウマレツキノオガアリマシテモ。行ヒガワルケレバ、リコウナトリケモノト、チガヒハアリマセヌ、ドウシテ人トイフコトガデキマセウカ。故ニガクモンヲスルノニ、タイセツナルコトハ、八ノミチヲ、アキラカニ知り、行ヒヲササムルコトデアリマス。

讀書

左ノ文ニ讀ム通りノ假名ヲ付ケヨ、例ヘバ我ガ邦列聖民ヲ保ツコト子ノ如ク堯舜禹湯ニ譲ラズルノ如シ

松平定信、侍臣ニ向ウテ、予幸ニシテ稍健カニナリタレド、人生五十八到底望ムベ

カラズ蓋シ四十年ヨリハ、長カルマジキカ、サレバ、ソノ以前ニ、人ノナスホドノコトハ、成シ畢ヘテ、人間ノ本分ヲ盡シタシト、云ヒシコト、屢ナリキ。凡テ大人ノ事業ヲ成セルヲ見ルニ外ヨリハ英氣ノ挫カル、ヲ防ギ、内ヨリハ、心ヲ勵マシテ、尙ホ幾年ノ餘生ヲ冀ヒ、コノ間ニコノ事ヲ成就セムトノ志望ヲ抱ケルモノハ、多キガゴトシ。定信ノ主義ハ、之ニ反シテ、決シテ明日アルヲ恃マズ、今日ノコトハ、今日成効スルニハ若カズ、明日覽ムト、タノシミシ櫻花ノ、夜半ノ嵐ニ散ルコト多キヲ見ズヤトイヘリ。定信ノ一代事業ハ、ミナコノ決心ノ確乎タリシニ由ル嗚呼立志ナルカナ、立志ナルカナ、志ダニ立タバ、愚公ハ山ヲモ移セリ。ダトヒ消極ノ途ヲトルトモ、マタ積極ノ途ヨリストモ共ニ成効ハ期スベキノミ。

左ノ文ヲ解釋セヨ

忠ト孝トハ、人道ノ至大ナルモノニシテ、臣タリ子タルモノ、一日モ忽ニスベカラザルモノナリ。犬尙三日ノ恩ヲ忘レズ。鳥能ク反哺ノ義ヲ知ル。人トシテ禽獸ニ

如カザルベケンヤ

嗚呼豊臣秀吉。人奴ヨリ起リテ、時機ニ投ジ、遂ニ群雄ヲ制服シテ、ソノ位人臣ヲ極メヌ。マタ壯ナリト謂フベシ

市街殷盛ナルコト島中ニ冠タリ。

左ノ語句ヲ解釋セヨ

狼狽。賸造。落成式。内地雜居。創業ノ功。面目一新。叡慮ヲ安ンズ。化學作用。徳器ヲ成就ス。開港佐幕ノ論。

算術

第一題

東西兩地相距ルコト三百二十四里ニシテ甲ハ東地ヨリ西地ニ向ヒ一日二十三里ツ、乙ハ西地ヨリ東地ニ向ヒ一日二十二里ツ、行クトセバ兩人同時ニ出發シ十二日ノ後相距ルコト幾里ナルカ

第二題

左式ヲ計算シ且ツ其結果ヲ小數ニ化セヨ 但シ小數四位マテ求ムヘシ

$$\begin{array}{r} \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \frac{1}{4} + \frac{1}{5} \\ \frac{1}{2} - \frac{1}{3} - \frac{1}{4} - \frac{1}{5} \end{array} + \frac{5}{6} - \frac{1}{9}$$

第三題

城兵七百二十八ヲ三十五日間支フヘキ糧食アリ然ルニ二十日ノ後百八十八ノ援兵ヲ得
タリトセハ残りノ糧食ニテ此後幾日ヲ支フヘキカ

第四題

工夫百五十人ニテ毎日八時間ツ、業ヲ執リ毎月二十四日ツ、働キ七ヶ月間ニ成就スヘ
キ一事ヲ工夫百二十八ニテ毎月二十八日ツ、働キ六ヶ月間ニ成就セシメンニハ毎日幾
時間ツ、業ヲ執ラシムヘキカ

歴史

- 一、左ノ項ニ就テ記述セヨ
- 一、大化ノ新政 二、後三條天皇ノ御事蹟 三、一ノ谷ノ戰
- 二、左ノ項ニ就テ記述セヨ
- 一、島原ノ役 二、左ノ地名ニ就キ其ノ所在國名ト歴史上著名ナル事項
- 甲 笠置山 乙 川中島 丙 嚴島
- 三、明治初年ニ於ケル征韓ノ顛末

地理

左記ノ山及ヒ河ノ在ル縣名ヲ舉ケ其附近ニ在ル重モナル都邑ノ名ヲ記セ

山 河 縣 名 都 邑

岩木山
三笠山

岩手山 磐梯山 箱根山 神通川 紀ノ川 太田川 球摩川 矢作川(矢剗川)

◎(明治三十九年四月)

讀書

一、左ノ文ニ讀ム通リノ假名ヲ附ケヨ
 例ヘバ「我ガ邦列聖民ヲ保ツコト子ノ如ク堯舜禹湯ニ譲ラズ」ノ如シ
 諸君ノ如キハ、春秋ニ富ミ、材力ニ足ル。若シ怠ラズシテ、日ニ學ニ進マバ、何ゾ

古人ニ及バザルベキ。然レドモ、歲月ハ恃ムニ足ラズ、材力ハ多トスルニ足ラズ、唯、汲々トシテ、勉メテ息マザルニ在リヌベシ。悠々トシテ、日ヲ涉リ、一旦年老イ、齡傾キテ、後、日頃ノ怠リヲ思ヒ出デテ、イカニ悔ユトモ、何ノ益カアルベキ。即チ今、翁ガ身ノ上ニテ候。サレバ、古詩ニモ、少壯ニシテ努力セズンバ、老大ニシテ徒ラニ傷悲セントイヒ、陶淵明モ、盛年重子テ來ラス、一日再ビ晨ナリ難シ、時ニ及ビテ勉強スベシ、歲月人ヲ待タズトイヘレバ、古人モ、コノ感懷ヲ同ジクセリトゾ見エシ。是等ノ詩句、時々吟詠シテ、勇進ノ志ヲ振起スベシ。

二、左ノ文ヲ口語ヲ用ヒテ分リ易キウニ解釋セヨ
 古人ノ細事ニモ心ヲ用ヒシ跡ヲ考ヘバ、耳目觸ルル所、皆智ヲ研キ徳ヲ進ムル資料トナラヌハナカルベシ。
 耕作ニ、運搬ニ、又殊ニ軍事上ニモ、吾人ガ、家畜ノ力ヲ借ルコト、頗ル大ナリ。厚ク之ヲ遇ス

三、左ノ諸句ニ讀ミ方ヲ附ケ且ツ口語ヲ用ヒテ分リ易キヤウニ解釋セヨ

模範 躊躇 對面 飢渴 凱旋 駿馬

發起人 御配慮 害蟲驅除 皇室ノ藩屏

作文

一、某山ニ登ル記

(注意) 文體ハ普通ノ漢字交リ文トス口語體ナルヘカラス

二、友人ノ中學校ニ入學セシヲ賀スル文

(注意) 書翰文ニ作リ平假名ヲ用フヘシ

三、左ノ口語ヲ文語(漢字交リ文)ニ改作セヨ但シ成ルヘク多ク漢字ヲ使用スヘシ

ヒトタルモノ、ヨニウマレテ、教ヲウケルコトガ、ナカッタナラバ、トリケモノト、アマリ違ヒハアリマセン。コドモガ、初メテ學校ニハイルトキハ、東西ヲモシリマセン。マシテ、ヒトノタフトキ道ナドハ、ナホサラ、シリマセン。シカルニ、數年

學ビタルノチハ、ヒトトシテ、ハツカシカラヌヤウニナリマス。學校ノオンハ、オホキイモノデハアリマセンカ。

地理歴史

一、左ノ項ニ就テ記述スヘシ

(一) 稚郎子 (二) 保元ノ亂 (三) 犬公方

二、左ノ各地所在縣名ヲ舉ケ歴史上著名ナル事項ヲ記セ

平泉 三形ヶ原(三ヶ方原) 屋島 賤ヶ岳 太宰府

三、左ノ都色ノ所在縣名ト其ノ産物ノ名トヲ記セ

桐生 尾去澤 瀬戸 小千谷 四日市 下關

別子 有田 那覇 生野

算術

一、左式ヲ計算スヘシ

$(574 + 967 + 275) \times (983 - 389) \div (1000 - 73)$

二、甲乙兩人共ニ働キテ十二日間ニ仕上ケ得ル仕事ヲ二日間共ニ働キタル後殘業ヲ甲ノミ働キテ十五日間ニ仕上ケタリト云フ今此仕事ヲ乙ノミ働キテオストキハ幾日ヲ要スルカ

三、左式ヲ簡單ニシ且ツ其ノ結果ヲ小數ニ化セヨ

但シ小數三位マテ求ムヘシ

$\frac{2\frac{1}{2} \times 3\frac{3}{4} - 3\frac{3}{4} \times 2\frac{3}{8}}{7\frac{2}{3} \times 4\frac{1}{2} - 7\frac{2}{3} \times 4\frac{1}{2}}$

四、甲乙兩街道アリ甲ハ其里程七里二十五町三十間ニシテ乙ハ二十九「キロメートル」ナリト云フ甲乙孰レカ近キカ又幾町ノ差アルカ但シ「キロメートル」ハ千「メートル」ニシテ「メートル」ハ三尺三寸ニ等シ

五、(比例ニテ答解セヨ)

石段ヲ築クニ一段ノ高サヲ九寸トスレハ百二十段トナルヘシ今若一段ノ高サヲ一寸

低クスルトキハ幾段増スヘキカ

六、(比例ニテ答解セヨ)

工夫六人毎日八時間働キ二十一日ニテ仕上クル仕事アリ今之ヲ工夫七人ニテ十六日間ニ仕上ケントセハ毎日幾時間働クヘキカ

◎(明治四十年度)

讀書

第一題

左ノ文ニ讀ム通りノ假名ヲ附ケヨ例ヘバ「我ガ邦列聖民ヲ保ツコト子ノ如ク、堯舜禹湯ニ譲ラズ。」ノ如シ

何事ニヨラズ、業ニ就キテハ怠ルベカラズ。成功ハ急グベカラズ。唯、常ニ心ヲ此ニ存スベシ。成功ニ急ナレバ、倦怠ノ念生ジテ、事遂ダ難シ。業ニ就キテ怠ラザレバ、面白ミ其ノ間ニ生ジ、遂ニ成功ノ域ニ達スベシ。

學問ノ道ハ、事業ノ中ニテモ、最モ難キモノナレバ、最モ此ノ覺悟ナクバ有ルベカラズ。然ルニ、學生ノ常トシテ、初メノ程ハ、随分熱心ニ勉強スレドモ、漸クニシテ、倦怠ノ念ヲ生ジ、其ノ甚ダシキハ、終ニ廢學スルニ至ル者アルハ、畢竟、成功ヲ望ムコトノ急ナルニヨレリ。大工左官ノ如キ卑近ノ業スラ、尙且ツ數年ノ年季ヲ入レテ、之ヲ修ムルニアラサレバ、其ノ大工ナリ、左官ナリ、一人前ノ職工トハナルコトヲ得ザルニアラズヤ。況シテ、人ノ人タル道ヲ修ムル學問ノ道ニシテ、容易ニ成就スベキモノナランヤ。

讀書

第二題

左ノ文ヲ口語ヲ用ヒテ分リ易キヤウニ解釋セヨ
貴賤貧富ハ、人ノ免レザル所ナレドモ、各、其ノ身分ニ相應シテ、財用ヲ節シ、儉素ヲ守ルハ、人タルモノ、美德ナリ。

我々臣民タル者ハ、皇室ノ尊榮ト、國體ノ完美トヲ保全センコトヲ冀ハザルベカラズ。
内憂外患交起ル。

讀書

第三題

左ノ語句ニ讀ミ方ヲ附ケ且ツ口語ヲ用ヒテ分リ易キヤウニ解釋セヨ
實踐躬行、軀幹長大、地勢平坦、歸化人、堪忍、審査、使節、拜眉、披露、敬具

作文

第一題

父母ノ恩

(注意 文體ハ普通ノ漢字交リ文トス口語體ナルベカラズ)

作文

第二題

運動會に友人を誘ふ文

(注意) 書翰文ニ作り平假名ヲ用フベシ)

作文

第三題

左ノ口語ヲ文語(漢字交リ文)ニ改作セヨ但シ成ルベク多ク漢字ヲ使用スベシ

ワレワレ日本ジシハ、日本魂トイフ、モットモタシカナセイシヲモツテアリマス。

コノセイシンヲモツテ、コノ日本コクラ、マモツテキマシタカラ、ムカシヨリ、タ

コクノアナドリヲウケナイノミナラズ、セカイニ類ヒナイクニナリトイフ、メイヨ

クヘモ、ウルヤウニナツタノデアリマス。

算術

第一題

第二題

運動會に友人を誘ふ文

(注意) 書翰文ニ作り平假名ヲ用フベシ)

作文

第三題

左ノ口語ヲ文語(漢字交リ文)ニ改作セヨ但シ成ルベク多ク漢字ヲ使用スベシ

ワレワレ日本ジシハ、日本魂トイフ、モットモタシカナセイシヲモツテアリマス。

コノセイシンヲモツテ、コノ日本コクラ、マモツテキマシタカラ、ムカシヨリ、タ

コクノアナドリヲウケナイノミナラズ、セカイニ類ヒナイクニナリトイフ、メイヨ

クヘモ、ウルヤウニナツタノデアリマス。

算術

第一題

左式ヲ計算スヘシ

(注意) 答解ハ左方ヨリ右方ヘ横書スヘシ)

$$(35742 \div 37 + 23 \times 45) \div (1903 - 1816)$$

算術

第二題

甲乙二人共有金ニテ或物品ヲ買ヒ甲ハ二十三個ヲ取り乙ハ十七個ヲ取りタル故甲ハ乙

ニ金九十六錢ヲ與ヘタリト云フ此ノ物品一個ノ價幾何ナルカ

(注意) 答解ハ左方ヨリ右方ヘ横書スヘシ)

算術

第三題

左式ヲ計算シ其ノ結果ヲ分數ニテ示スヘシ

(注意) 答解ハ左方ヨリ右方ヘ横書スヘシ)

$$\frac{3\frac{1}{5} + 7\frac{5}{8}}{6\frac{2}{5} - 1\frac{1}{3}} \div (3.75 \times 0.405 \div 0.1215)$$

算術

第四題

一人ニテ働ケハ甲ハ十二日乙ハ十五日丙ハ二十日ニテ仕上ケ得ル仕事ヲ甲乙丙三人共ニ働キテナストキハ幾日ニ仕上ケ得ヘキカ

(注意 答解ハ左方ヨリ右方ヘ横書スヘシ)

算術

第五題

比例ニテ
答解セヨ

旅人アリ正午ニ出發シ日没マテニ五里七町ヲ歩ミ午後八時マテニ七里十二町ヲ歩ミタリト云フ日没ノ時刻ヲ問フ

(注意 答解ハ左方ヨリ右方ヘ横書スヘシ)

算術

第六題

比例ニテ
答解セヨ

金二百三十五圓二十錢ニテ一俵四斗二升入ノ米三十五俵ヲ買ヒ得ヘシトセハ金二百八十八圓ニテ一俵幾許入ノ米四十五俵ヲ買ヒ得ヘキカ

(注意 答解ハ左方ヨリ右方ヘ横書スヘシ)

地理、歴史

第一題

左ノ項ニ就テ記述スヘシ

- 一、足利義滿ノ事蹟
- 二、天保ノ改革
- 三、明治七年ノ臺灣征伐

地理、歴史

第二題

左ノ各地ノ所在縣名ヲ舉ケ且ツ歷史上著名ナル事項ヲ記セ

所在縣名

歷史上著名ナル事項

天目山
富士川
勿來關
長篠
下ノ關

地理、歴史

第三題

本邦著名ノ湖沼十個ヲ舉ケ其ノ所在國名ヲ記セ

湖沼名 所在國名

◎ (明治四十一年度)

讀書

左ノ文ニ讀ム通リノ假名ヲ附ケヨ例ヘバ「我が邦列聖民ヲ保ツコト子ノ如ク、堯舜禹湯ニ讓ラズ」ノ如シ

一、(イ) 英邁博識ノ士ハ、ソノ胸中ノ別天地ノアルアリテ、浮世ノ榮枯盛衰ニ關セザルモノナリ、君、年既ニ六十ヲ越ユレドモ、鑠鑠トシテ壯者ノ如ク、和氣藹然トシテ、滿面笑ヲ含ミ、絶エテ老衰ノ色ナシ。

二、(ロ) 六日、未明ニ起キテ、甲板ニ出ツレバ、船ハ既ニ長崎港外ニアリ、檢疫ノ濟ムヲ待チテ、九時過ギニ上陸シ、先ヅ諏訪神社ニ詣ヅ。

三、左ノ文ヲ口語ヲ用ヒテ分リ易キヤウニ解釋セヨ

(イ) 博覽會ヲ開設シ全國ノ衆品ヲ一場ニ列ネテ、コレヲ通覽セシメナバ、優劣

判然トシテ知ラルベシ。

(五) 公ハ、己ノ勞ヲ露ホドモ誇リ顔ニ、人ニ語り給フコトナカリキ。

(六) 豫期以上ノ好果ヲ收メタリ。

三、左ノ語句ヲ口語ヲ用ヒテ分リ易キヤウニ解釋セヨ

空前ノ事業

意氣揚揚

沃野千里

協議會

行幸

還

御

抵抗

占領

偉人

作文

一、某公園ニ遊フ記

(但シ文體ハ普通ノ漢字交リ文トス口語體ナルベカラズ)

二、病氣見舞ノ文

(本題ハ書翰文ニ作り平假名ヲ用フベシ 但シ自己ノ氏名ヲ記入スベカラス)

三、左ノ口語ヲ文語(漢字交リ文)ニ改作セヨ 但シ成ルベク多ク漢字ヲ使用スベシ

世のなかには、かねや、たからを得んがために、んきやうするひとは、おほい
けれども、よき友を得んがために、くしんするひとの、すくないのは、あやしむ
んきことであります。とみて、かねや、たからを、おほく、もつことも、ゆくわ
いでないことはありませんけれども、よき友を、おほくもつことは、またじつに、
ゆくわいなことでもあります。

算術

一、左式ヲ計算スベシ

$$(7365 \times 432 \div 491 - 879 \times 725 \div 1465) \div (37 \times 9 + 324 \div 18)$$

二、菓物ヲ小兒ニ分配スルニ一人ニ七個ツ、與フレハ九個餘リ九個ツ、與ヘンニ二十
七個不足スヘント云フ菓物ノ數及ヒ小兒ノ人員ヲ問フ

三、毎週一日ヲ休業日ト定メ其ノ他ノ日ハ八時二十五分ツ、作業ニ従事スルモノトセ
ハ二百五十二時三十分ハ幾週ノ作業時間トナルカ

- 四、甲乙丙ノ職工アリ一人ニテ働クハ甲ハ九日四分ノ三、乙ハ十日六分ノ五、丙ハ十日三分ノ一ニテ仕上ケ得ル仕事アリ今此ノ仕事ヲ甲乙三人ニテ共ニナスコト三日ノ後餘業ヲ丙一人ニ任セタリトセハ丙ハ幾日働キテコレヲ完成スルカ
- 五、旅人アリ三十一日間ニ二百六十二里半ヲ行ク割合ニテ百三十里又九日ト六時間ヲ行ケリト云フ此ノ人一日ノ行進時間ヲ求ム(比例ニテ答解セヨ)
- 六、大人七人ト小兒九人トノ勞力相等シ今或ル仕事ノ七分ノ三ヲ大人十八人ニテ二十一日間ニタシタリトセハ殘業ヲ小兒二十七人ニテ仕上ケンニハ幾日ヲ要スルカ
(比例ニテ答解セヨ)

(注意) 答解ハ二、三、四、五、六題共左方ヨリ右方へ横書スヘシ

地理及歴史

一、左ノ各項ニ就キテ記述セヨ

- (イ) 阿部仲磨ノ事蹟
- (ロ) 前九年ノ役
- (ハ) 赤穂義士

二、左ノ各地ノ所在府縣名ヲ擧ケ歴史上著名ナル事項ヲ記セ

- 浦賀 會津 博多 船上山 宇治

三、左ノ郡邑ノ所在縣名ト其ノ産物ノ名トヲ記セ

- 久留米 阿仁 津山 弘前 多治見 足利 黒江 豊岡 撫養 高岡

◎ (明治四十二年)

讀書

左ノ文ニ讀ム通リノ假名ヲ附ケヨ例ヘバ「我が邦列聖民ヲ保ツコト子ノ如ク、堯舜禹湯ニ譲ラズ。」ノ如シ

- 一、(イ) カノ海洋ニ航シテ、浩蕩タル波浪ヲ凌ギ、名山峻嶺ニ登リテ、嵯峨タル巖壁ヲ攀ツルガ如キハ、彼等ノ最モ好ム所ニシテ、コレ即チ彼等ガ探險思想ニ富ミ、敢爲ノ氣象ヲ具ヘタル特性ヲ表ハセルナリ
- (ロ) 月ハ白ク沙ハアカク、近キ丘ノミ黒ク峙ツ中ヲ、一隊ノ土人ノ、駱駝ニ跨

リテ徘徊スル様ノ奇ナル、ソノ寂寞ノ景况、殆ンド形状スベキラス

二、左ノ文ヲ口語ヲ用ヒテ分り易キヤウニ解釋セヨ
(イ) 各戸國旗ヲ掲ゲテ、市街ヲ裝飾シ、萬民歡呼シテ、聖壽ノ萬歳ヲ祈リ奉ル
(ロ) 人ハ孤立シテ生業ヲ營ムコト能ハズ
(ハ) 學生ノ精力ヲ注グ

三、左ノ語句ヲ口語ヲ用ヒテ分り易キヤウニ解釋セヨ

出帆豫定

縦覧許可

來訪者

流行病

果斷

復命

叔父

赤心

巨魁

待遇

作文

一、余ノ學ビシ學校

(注意)

文體ハ普通ノ漢字交リ文トス
口語體ナルベカラズ

二、友人ニ勉強せんことを勧むる文

三、左ノ口語ヲ文語(漢字交リ文)ニ改作セヨ但シ成ルベク多ク漢字ヲ使用スベシ

ヒトノシヨクダフヲ選ブニハ、ヨホド、チユウイセチバナリマセンガ、年少ノコ
ロニハ、ニコロウキヤスク、輕卒ニシヨクダフヲキメ、スコシ、ホチガラレ、
オモツタトホリニナラナケレバ、チユウトデ、ヤメルモノガオホクアリマス。コ
ノハ、シツニ思ムベキコトデアリマス。

算術

(注意)

答解ハ左方ヨリ右方ハ横書スベシ
以下略ス

一、左式ヲ計算スヘシ

$$(102456 + 2582) \times 307 + 306$$

二、左式ヲ計算スヘシ

$$\frac{13}{75} + \frac{13}{25} \times \frac{20}{39} - \frac{5}{50} + \frac{2}{15}$$

三、金若干圓ヲ甲乙丙ノ三人ニ分ツニ甲ニハ全額ノ五分ノ二、乙ニハ全額ノ三分ノ一、
丙ニハ其ノ殘餘ヲ與フルコトヲセリ而シテ甲ノ所得ハ丙ノ所得ヨリモ四十二圓多
クナレリ三人ノ所得ハ各々幾圓ナルカ

四、甲乙ノ二人同時ニ同所ヲ發シ同方向ニ七時間進ムトキハ二里十二町離レ又反對ノ方向ニ五時間進ムトキハ二十里離ルヘキ割合ナリト云フ甲乙一時間ノ速サ各如何

但シ甲ノ速サハ乙ノ速サヨリモ大ナリトス

五、比例式 $30:48 \parallel 40:64$ ニ於テ第三項ナル 60 ニ 90 ヲ加ヘ第一項ナル 30 ニ若干數ヲ

加減シテ尙ホ比例式ヲ成立セシメントス加減スヘキ若干數ヲ問フ

六、三十八人ノ職工カ毎日八時間宛働キ十五日間ニ賃金三百三十六圓ヲ得タリ此ノ割

合ニテ二十一人ノ職工カ三十日間ニ二百九十四圓ノ賃金ヲ得ンニハ毎日幾時間宛

働クヘキカ(比例ニテ答解セヨ)

地理、歴史

一、左ノ各項ニ就キテ説明セヨ

(イ) 承久ノ亂

(ロ) 耶蘇教ガ我が邦ニ傳來シテヨリ其ノ禁絶セララルルニ至ルマデノ變遷

(ハ) 徳川吉宗ノ治績

二、左ノ各地ノ所在縣名ヲ擧ゲ歴史上著名ナル事項ヲ記セ

種子島

嚴島

金崎

小田原

多賀城

三、左ノ諸川ハ何應縣ニ於テ海ニ注グカ又其ノ河口附近ニハ如何ナル都會アルカ左ニ

之ヲ記入セヨ

御物川

射水川(庄川)

千代川

山國川

大淀川

熊野川

揖斐川

利根川

北上川

釧路川

切實生物之科學問題

同業會

讀書

一、左ノ文ニ讀ム通リノ假名ヲ付ケヨ例ヘバ「我が邦列聖民ヲ保シコト子ノ如ク、堯舜禹湯ニ譲ラズ。」ノ如シ

我邦ニ於ケル西洋式ノ兵制ハ慶安年間北條正房蘭人ニ就キテ某攻城ノ法及ビ大砲ノ用法ヲ問ヒ之ガ爲メニ書ヲ編シ木ヲ以テ其様式ヲ作り之ヲ幕府ニ献ゼシヲ以テ始メテ端緒ヲ開ク者トシ後百八十餘年ヲ經テ天保年間鈴木春山三兵活法ヲ著セシヲ以テ西洋兵制ヲ論ズルノ始トシ高島四郎太夫高敦江戸ニ召サレテ西洋流ノ銃隊ヲ練習セシヲ以テ洋兵操練ノ始トス砲術ハ徳川氏ノ初メヨリ其流派多ク分レテ有名ノ人モ絶エザリシガ正保中井上外記正繼ノ如キハ殊ニ傑出セル者ニテ新ニ發明スル所アリテ多ク其器ヲ創製セリ

二、左ノ文ヲ解釋セヨ

人々形コン生レシキタルコトナレ心ハ愚ナルヨリ賢キニ移サバ移サルベシサレバ古

忠臣義士ヲ學ビ後代ニハ吉キ例ニモヒカレ父母ノ名マデモ顯スヤウニ心懸ケタキ
コトニ候

三、左ノ文ヲ解釋セヨ

凡ソ戰ハ糧ノ足ラザルヲ憂ヘズ兵ノ衆カラザルヲ憂ヘズ策ノ奇ナラザルヲ憂ヘズ憂
フル所ノモノハ唯斷ノ足ラザルニ在ルナリ

四、左ノ文字ニ讀マル、様假名ヲ付スヘシ (右傍ヘ付スルコト)

故ニ學問ノ本旨ハ、讀書ノミニ非ズシテ、精神ノ働キニアリ。此ノ働キヲ活用シテ、
實地ニ施スニハ、様々ノ工夫ナカル可ラズ。「オブザーヴェーション」トハ事物ヲ觀察
スルコトナリ。「リポート」トハ、事物ノ道理ヲ推究シテ自分ノ説ヲツクルコト
ナリ。此ノ二個條ニテハ、固ヨリ未ダ學問ノ方便ヲ盡シタリトイフベカラズ。ナホ
コノ外ニ書ヲ讀マザルベカラズ、書ヲ著サルベカラズ、人ト談話セザルベカラズ
人ニ向テ言ヲ述ベザルベカラズ、此ノ諸件ノ術ヲ用ヒ盡シテ始メテ、學問ヲ勉強ス

ル人トイフベシ。即チ觀察、推究、讀書、ハ以テ智見ヲ集メ、談話ハ、以テ智見ヲ
交易シ、著書演説ハ、以テ智見ヲ散ズルノ術ナリ

五、左ノ文字ヲ解釋セヨ

善ク游グモノハ溺レ、善ク騎ルモノハ墜ツ。
鶴鶴林ニ巢ヘドモ、一枝ニ過ギズ。假鼠河ニ飲メドモ滿腹ニ過ギズ。
秋毫ノ末ヲ見ルモノモ、自ラ其ノ睫ヲ見ズ。
鼠ハ社ニ憑リテ、驕リ、狐ハ虎ノ威ヲ藉ル。
九層ノ臺ハ、累土ヨリ起リ、千里ノ行ハ、足下ヨリ始マル。
一小猴、人ノ髭ヲ剃ルヲ見テ、刀ヲ偷ミ、コレニ擬ヒ、自ラソノ鼻ヲ傷ク。世ノ、
習ハズシテ、事、ニ從フモノ、多クハコノ類ナリ。

六、左ノ文字ヲ解釋セヨ

無覺束 拇指 澤瀉 萬年青 邂逅 凱旋 咳嗽 介添 界限
開關 慷慨 豪傑 拷問 蝙蝠 案山子 杜鵑 燕子花 鏡

七、 (訓 點)

サテ、此等ノ法律ヲ制定スル權、所謂立法權ナル者ハ、天皇ノ掌握シ給フ所ニシテ、天皇ハ、帝國議會ノ協賛ヲ經テ、之ヲ行ヒ給フ。サレバ我國ニ於テ、法律ヲ制定スル通常ノ順序ハ、先ヅ政府ニテ其ノ制定セント欲スル法律案ヲ、帝國議會ニ提出シ、帝國議會ハ一讀會、二讀會、三讀會ノ順序ヲ經テ、之ヲ議決スルナリ。政府ヨリ法律案ヲ提出スルニハ、或ハ貴族院ヲ前ニシ、或ハ衆議院ヲ前ニスルコトアリテ、先ヅ甲院ニテ議決スル時ハ、乙院ニ廻送シテ、之ヲ議決セシメ、兩院トモニ議決スルトキハ、コレヲ天皇ニ上奏ス。天皇ニ於テ之ヲ是認シ給フトキハ、之ヲ裁可シテ、其ノ公布及ビ執行ヲ命ジ給フ。法律案ハ、政府ヨリ提出スルノミナラズ、兩院ニ於テモ、亦之ヲ提出スルコトヲ得ルナリ。

八、 (釋 義)

霜ヲ履ンデ、堅氷至ル。

覆水、盆ニ返ラズ。

盜ヲ見テ繩ヲ綯フ

管ヲ以テ天ヲ窺ヒ、蠡ヲ以テ海ヲ測ル。

坐ニ升レドモ、未タ室ニ入ラズ。

九、左ノ文字ニ讀ミ方ヲ付且口語ヲ用ヒテ解釋セヨ

熟練 五穀 桃李滿公門 巧妙 格言 懶惰 隨從 拂曉

連射 奪略 倉皇

十、 (訓點、解釋)

徽 鳴鏑 插頭 感佩 感冒 早魃 甲板 乾瓢 痲癬
勘辨 簡略 燕麥 骨牌 比目魚 飢渴 桔梗 棄捐 木耳
機會 徽章 烟管 嫉衛

十一、左ノ文ニ讀ム通リノ假名ヲ付ケヨ例ヘバ「我ガ邦列聖民ヲ保ツコト子ノ如ク、

堯舜禹湯ニ譲ラズノ如シ

サテ憲法ニ明示シ給ヘル如ク、我ガ大日本帝國ハ、萬世一糸ノ天皇之レヲ統治シ給ヒ、天皇ハ神聖ニシテ侵スベカラズ。天皇ハ只法律ヲ敬重シ、憲法ノ條規ニ依リテ、其ノ大權ヲ行ヒ給フ。此ノ大權ハ、之レヲ大別スレバ、立法、行政、司法ノ三權トシ、天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ、立法權ヲ行ヒ、法律ヲ裁可シ、其ノ布告ト執行トヲ命シ給フ。天皇ハ又帝國議會ヲ召集シ、其ノ開會、閉會ヲ宣告シ給ヒ、時宜ニヨリテハ、議會ノ停會、及ビ衆議院ノ解散ヲ命シ給フコトアルナリ。
天皇ハ、行政各部ノ官制、及ビ文武官ノ俸給ヲ定メ、文武官ヲ任免シ、陸軍、海軍ノ編制ト、常備兵額トヲ定メ給フ。外國トノ交戦ヲ宣告シ、和親ヲ訂盟シ、條約ヲ締結スルモ、亦天皇ノ大權ニアルナリ。殊ニ天皇ハ我ガ國榮譽ノ源泉ニシテ、爵位、勳章、及ビ其ノ他ノ榮典ヲモ授與シ給フ。

十二、左ノ文ヲ解釋セヨ

君子ハ屋漏ニモ愧ヂズ

忿怒一タビソノ節ヲ失ヘバ、胸中、道理ナク、親戚ヲモ顧ミル地ナク、故舊ヲモ怨スル違ナク、恩誼ヲ破リ、信義ヲ失ヒ、生涯ノ禍ヲ以テ一時ノ快ヲ買フモノアリ
忍耐ハ、交際親和ノ要具ナリ

盲人蛇ニ畏ヂズ 論ヨリ證據

十三、左ノ文句ヲ解釋セヨ

驚天動地 牽強附會 櫛風苦雨 車馬絡繹 片言隻語 袖手傍觀
粉骨碎身

幼年 生

十四、今ノ合衆國ハ當時英國人ノ移住ニ係リシニ本國政府甚ダ苛酷ナリシカバ國人大ニ決心スル所アリテ我ガ安永三年斷然本國ト干戈ヲ交ヘ是ヨリ八星霜ノ久シキニ亘レリ抑米人ハ氷ク本國政府ノ聚斂ニ窘メラレ民資匱シク軍費繼カズ兵仗備ハラズ往

往棍挺ヲ揮ヒテ銃劔ニ換フル者アリ之ヲ英軍ノ富膽ニシテ兵仗ノ銳利ナルニ比スレ
ハ霄壤モ管ナラズ

十五、鶉ノ眞似スル鳥ハ水ニ溺ル

敷島ノ日本心ヲ人間ハ、朝日ニ匂フ山櫻花

十六、左ノ字句ニ傍訓ヲ施シ又其大意ヲ説明スベシ

出入 出納 善惡 好惡 變易 簡易 頭目 頭痛 建築 建立

十七、 (訓 讀)

山水ノ遊ハ體ヲ養ヒ知ヲ増シ氣風ヲ高尚ニスル徳アルモノゾ活潑有爲ノ學生ハ暇アリナバ近郊ニ遊行シテ野山曠ク森樹茂レル所ニ新鮮ナル空氣ヲ呼吸シ海ノ爽快ニシテ浪白キ所溪ノ幽邃ニシテ石青キ汀ニ臨ミテハ平素都市ノ紅塵ニマミレタル頭腦ヲ洗ヒ清メテ他日勤學ノ資トナスベシ彼ノ徒ニ陋巷ヲ徘徊スルハ知ラズ識ラズ惡風ニ感染シテ身ニ益ナシ扱マタ風光清朝ナル日ニ窓ヲ閉テ友ヲ會シテ骨牌ヲ弄スル知キ

ハ活潑ナル少年ノ爲スベキ業ニアラズ

十八、 (釋 義)

甲州ノ土皆勝頼(武田)ニ叛キテ逃ダ去リシニ四十二人バカリハ傾覆流離ノ間ニ附キ纏ヒテ聊カニ心ナク國難ニ殉セシハ孰レモ節義ノ士ト申スベシ

十九、 (釋 義)

報國ノ心堅固ナラザルトキハ事ニ臨ミテ躊躇シ不覺ヲ取り汚名ヲ受クル事少カラズ

二十、 (訓 讀例)

我邦列聖民ヲ保ツ子ノ如ク堯舜禹湯ニ讓ラズ

(訓 讀) 訓讀例ニ倣ヒ答解セヨ

國語國文ニシテ十分ニ發達シ人々其意志ヲ表明スル材料ニ富ミタル國ハ一國ノ文明年ヲ逐ヒテ益々隆盛ニ赴キ國民ノ智識世ヲ追ヒテ愈々進歩スルハ自然ノ結果ナラザ

ルヲ得ズ而シテ國語國文ノ發達セザル國ハ之ニ反ス故ニ文明世界ニ國ヲ立ツル者ハ各其ノ自國ノ言語文章ヲ尊重シ之ヲ普通教育ノ最先ニ置キ之ニ最長キ時間ヲ與ヘテ學習セシム故ニ普通教育ヲ卒業シタルモノハ總テ日用往復通信ノ言語文字ヲ合格使用スルニ於テ差支ナク更ニ高等教育ヲ卒ヘタルモノハ概ネ其論著スル所ニ富ミ見ル者ヲシテ直ニ了解感動セシムルニ足レリ

二十一、釋義例

功名ヲ竹帛ニ垂ル

十、手柄ヲ立テ其名ヲ書物ニ書キ載セラレテ後ノ世マデ傳ヘラル

(釋義)

釋義例ニ倣ヒ答解セヨ

平和希望ノ念ハ國家獨立ノ榮ト伴ハザル可カラズ若シ此ノ榮ヲ失ハムトセムカ國民タル者ハ死力ヲ盡シ國土ヲ舉ゲテ灰燼ト爲スモ奮テ之レヲ防禦セスバアル可カラズ

二十二、

人間ノ私語ハ天ノ聽ニハ雷ノ如ク世上ノ密事ハ神ノ目ニハ電ノ如シ何ゾ恐レ慎マザルベキ

二十三、左ノ文ニ讀ム通リノ假名ヲ付ケヨ例ヘバ「我ガ邦列聖民ヲ保ツコト子ノ如ク、堯舜禹湯ニ譲ラズ。」如シ

群盲鼎ヲ擁シテ立チ、鉉ヲ握リテ弓トナスモノアリ。腹ヲ撫シテ鐘トナスモノアリ。足ヲ抱キテ柱トナスモノアリ。耳ヲ執リテ盤トナスモノアリ。均シク全鼎ヲ見ズ、喧嘩シテヤマズ。一老盲アリ。徧摩深察シ、傲然トシテ群盲ニ諭シテ曰ハク、「某ノ握ル所ハ鉉ナリ。某ノ撫スル所ハ腹ナリ。某ノハ足ナリ。某ノハ耳ナリ。此レヲ鼎ト云フ」ト。衆咸ナ服セリ。一盲曰ハク、「已ニ其ノ名ヲ聞クヲ得タリ。請ヒ問フ、其ノ用ハ如何」ト。老盲答フルコト能ハザリキ。識者ヨリ之レヲ觀レバ、一端ヲ執ルモノハ、誠ニ陋ナリ。全體ヲ舉ゲテ、其ノ名ヲ諳ンズレトモ、其ノ用ズル所以ヲ

知ラザルトキハ、亦得タリトナサズ。嗚呼、人世之レニ類スルモノ極メテ多シ。何
ゾ獨リ群盲ノミナランヤ。

二十四、左ノ文ヲ解釋セヨ

塵モ積モレバ山トナル。

口ハ禍ノ門。

運ル水車ハ凍ル隙ナシ。

類ハ友ヲ呼ブ。

良藥ハ口ニ苦シ。

二十五、左ノ文句ヲ解釋セヨ

千里之駒

棟梁之材

中原之鹿

金蘭之交

舐犢之愛

竹馬之友

南山之壽

二十六、左ノ文ニ讀ム通りノ假名ヲ附ケヨ例ヘバ「我ガ邦列聖民ヲ保ツコト子ノ如ク、

堯舜禹湯ニ讓ラズ。」ノ如シ

一點ノ火ニテモ思ヒヨラサル時手ニ當タレハ驚キテ色ヲ變ズ大ノ疾ニテモ覺悟シテ
炷スレハ驚クコト無シ古人ノ書ヲ讀ミ人物得失ヲ辨シ治亂興廢ノ跡ヲ觀ルニ皆我カ
覺悟スル工夫ナリ道ニ古今無ク理ニ内外ナシ事跡ハ同シカラサレトモ道理ハ一ニ歸
スルナリ

今川義元戰場ニテ何某ヲ召シ斥候ニ遣ハシキ先陣戰ヒ始マリシ所ナレバ逃レ難ク鎗
ヲ交ヘ首一級ヲ得テ歸リヌ義元大ニ怒リ敵勢ヲ覘ヒ速ニ歸ルヘシト命セシニ己レノ
功ヲ貪リ忠義ノ心無シ軍法ニ行フベシトアリ彼ノ士シホレタル體ニテ側ノ人ニ低聲
ニテ家隆ノ歌ニ 苜蓿に身にしむ色は無けれども見て捨て難き露の下折れ カク唱
ヘシカバ義元益怒リ何ト云フトアリシニ侍臣其ノ事ヲ告ケシカバ暫ク沈吟シテ忽チ
怒色霽レ届カサル事ナレトモ急猝ノ間家隆ノ歌ヲ思ヒ出シシコト名譽ナリトテ罪ヲ
赦サレタリ

二十七、左ノ文句ヲ解釋セヨ

士々ラム者ハ分限相應ノ人馬ヲ持テ武具ヲタタハヘ軍學ヲ究メ武術ヲ習フベシ弓馬
劍術拔刀鎗鳥銃柔術等タリ俗劍術ヲ兵法トイヘルハ非ナリ兵法トハ軍法ノ事ヲイフ
鐵炮ト書クハ非ナリ鐵炮ト書クベシ又支那ノ書ニ拳法手搏トアルヲ俗間ヤハラト訓
ムハ大ニ非ナリ拳法手搏ハ支那ヨリ出ツ今世ニイフ捕縛ナリ柔術ハ本朝ニテ近世紀
州ノ關口氏ヨリ始マル

物ハ通ル理アリ通ラヌ理アリ譬ヘハ船ヲ水ニ浮ベ車ヲ陸ニヤルハ通ル理ナリ船ヲ陸
ニヤリ車ヲ水ニ浮フルハ通ラヌスチナリ物コト此ノ心アルベシ
外力仇讐ヲ避ケス内チ親戚ヲ避ケズ至テ公ナリト

二十八、左ノ字句ヲ解釋セヨ

人事盡ル處便チ是レ命
寧ロ玉ト爲リテ碎クルトモ瓦ト爲リテ全キコト勿レ

從兄弟再從兄弟

一人虛ヲ傳フレバ萬人實ヲ傳フ習ナリ

人ヲ謗ルハワガ短ヲアラハスナリ

積善ノ家ニハ餘慶アリ積不善ノ家ニハ餘殃アリ

紡績 昔習 頓才利口 先考ノ肖像

二十九、左ノ文ニ讀ム通リノ假名ヲ附ケヨ例ヘバ「我ガ列邦聖民ヲ保ツコト子ノ如ク、
堯舜禹湯ニ譲ラズ。」ノ如シ

古語ニ衣垢ツキタルヲアラハズ器カケタルヲ補ハザルヲバ人ニ見スル事ヲハヅレド
モ行アカツキタルヲアラハズ徳カケタルヲ補ハズシテ天ニ對シテモ恥ツル事ナキハ
何ソヤトイヘリ思フニ世ニ刀ヲタメシ甲ヲタメス者アリト雖モ未タ心ヲタメシ身ヲ
タメス者ヲキカズ外ヲ知リテ内ヲワキマヘズ本ヲ捨テ末ヲ取ル惑ヘルニ非ズヤ
一條兼良公ノ說ニ善キ人ヲ曰ハ「一ニ正直廉潔ニシテ極真ナル人ニ奉公ノ忠節ヲ

致シ私ヲ願ミサル人三ニ弓馬ノ道ニ達シテ心勇ミアル人四ニ和漢ノ才藝アル人此等
ヲ近付クベシ善カラヌ人ヲ曰ハハハニ胡亂猛惡ニシテ欲ニフケル人二ニ不奉公ニシ
テ人ノ非ヲ揚クル人三ニ武藝ニ拙ナク臆病タル人四ニ狂言綺語ヲ以テ人ニ笑ハル、
ヌ面白トスル人此等ヲ遠ザクベシ

三十、左ノ文ヲ解釋セヨ

書ヲ讀ムニハ必ズ句續キヲ明カニシテ讀聲ヲ詳ニシ清濁ヲ分チ訓點ニ誤ナク、一テニ
ヲハ一ヲ精シクスベシ世俗ノ疎ナル誤ニ隨フベカラズ

毎日一ノ善事ヲ知リ一ノ善事ヲ行フテ小ヲ積ンテ止マザレハ必ズ大ニ至ル日々ノ功
ヲ怠リ習ヒヲ缺ベカラズ

聖人ハ尺壁ヲ尊バズシテ寸陰ヲ借ムト云ヘリ

三十一、左ノ語句ヲ解釋セヨ

尙武ノ國 志望ヲ達ス 口ハ禍ノ門 塵モ積レハ山トナル

前津ノ覆ヘルハ後車ノ誠ノ 軍隊ノ強弱 我田ニ水ヲ引ク 泣キ面ニ蜂

理非曲直 煩雜 正直ノ頭ニ神ヤトレル

三十二、左ノ文ニ讀ム通りノ假名ヲ附ケヨ例ヘバ「我が邦列聖民ヲ保ツコト子ノ如ク、
堯舜禹湯ニ譲ラズ。」ノ如シ

眼鏡ニ二種アリ老人眼鏡ト近眼眼鏡トノ二ナリ老人ハ細カナル物ヲ明ラカニ視ルコ
ト能ハザルガ故ニ眼鏡ノ力ヲ借リテ物ノ形像ヲ巨大ニセントス此ノ力アル眼鏡ハ表
面凸ナル種類ニシテ即チ凸鏡ナリ又近眼ノ人ハ明ラカニ遠方ノ物ヲ視ルコト能ハザ
ルガ故ニ眼鏡ノ力ヲ借リテ物ノ形像ヲ近接セシメントス此ノ力アル者ハ表面凹ナル
種類ニシテ即チ凹鏡ナリ故ニ凹鏡ヲ目ニアツレバ物ヲ大キク見シメ凹鏡ヲ目ニアツ
レバ物ヲ近ク見シム此ノ外凸鏡ニハ猶ホ一ノ肝要ナル働キアリ即チ目ヨリ遠ザケテ
持ツ時遠方ノ樹木家屋等ヲ倒ニ見セ且ツ近ク映セシム是レ遠方ナル物體ノ形像ガ
眼鏡ヲ透シテ眼ニ近ク現ハル、故ナリ

三十三、左ノ文ヲ解釋セヨ

古ヘノ名將ハ士ヲ愛シ廉恥ヲ勵マシ禮儀ヲ以テ下ヲ使ヒ士氣ヲ振ヒ忠節ヲ盡サシメ
テ小過失ハ宥恕シタルアリ
マノアタリ見ル人ナシトモ明暗ヲ以テ行ヲ二ツニスベカラズ君子ハ屋漏ニモ愧デズ
ト云ヘリ

ワザ赤十子社ノ濫觴ハ明治十年西南戰亂ノ際ニアリ

三十四、左ノ語句ヲ解釋セヨ

詐偽 辯護 省察願慮 惡事千里ヲ走ル 叡慮ヲ安シズ 碩學鴻德
人情伺察 教導誘掖 城壁峭絕 踴躍奮戰

三十五、左ノ文ニ讀ム通りノ假名ヲ付ケヨ例ヘハ「我が邦列聖民ヲ保ツコト子ノ如ク、
堯舜禹湯ニ譲ラズ。」ノ如シ

聖帝天ニ代リテ萬民ヲ覆育シタマヒ君道師道ヲ一ツニシテコレヲ治メ且教ヘタマフ

萬民ノタメニ災害ヲ防キ生ヲ厚クシ用ヲ利シ百官ヲ設ケ紀綱ヲ立テ賞罰ヲ明ニスル
ハ君道也器獲陷井ヲ設テ猛獸鷲鳥ノ害ヲ防キ川澤ヲ通シ溝洫ヲ開テ水患ノ患ヲ防キ
兵刑ヲ以テ暴亂ヲ禁シ城郭關門ヲ制シテ寇盜ニ備フル類ミナ民害ヲ除ノミチナリ五
穀ヲ殖田疇ヲ治メ經界ヲ正クシ糶糴ヲ平ニシ貯蓄ヲ多クシ本業ヲ貴ヒ未作ヲ賤ニス
ルノ類ミナ生ヲ厚クスルノ道ナリ室屋ヲ營ミ衣服ヲ制シ器財ヲ生シ有無ヲ通ズルノ
類皆用ヲ利スルノ道也是等ノ政令ヲ施シタマハシニ百官ナクシテハナシ得ザル事ナ
ル故官ヲ分テ職ヲ設テコレヲ治ム紀綱トハ綱ノ大綱ニシテ即政治引與サンタメノ大
綱也

三十六、左ノ文ヲ解釋セヨ

君臣ノ道ハ義ヲ主トス君ノ臣ヲ使ヒ臣ノ君ニ事フル事上下各々其ノ義アリ是レ天然
ノ大道ニシテ人ノ造作スル所ニアラズ
常ニ爲スヘキ事ト爲スマジキ事ヲカネテ決斷シテタトヒ身ヲ醜ニシ骨ヲ粉ニスルト

モ節操ヲ變ズベカラズ義ヲ重ムズル心ハ鐵石ノ如ク義ニ捨ツル命ハ塵芥ニヒトシカ
ルニシ

人ニ善事ノ物語リスルハ陰徳ナリ惡事ノ物語リスルハ惡業也人間入テトモ勤メテ善
事ヲ語ルベシ

三十七、左ノ語句ヲ解釋セヨ

版圖ハクニ 出納イッパツ 幸歲サイゾウ 一遇イツブツ 古郷コキョウ ニハ錦ヲ飾ニ 強飯加餐キヤウハンカサン 敵國ノ鎖鑰テツ

嚮導キヤウドウ 懸崖數百尋ケンゲイソウヒヤクジュン 狐疑猶豫コウイユウイ 勇決果斷ユウケツカツダン

三十八、左ノ文ニ讀ム通りノ假名ヲ附ケヨ例ハハ我ガ邦列聖民ヲ保ツコト子ノ如ク、

堯舜禹湯ニ讓ラズ。ノ如シ

小事ヲ輕忽スルモノハ大人ニ非ス大人ハ小事ニ於テ最モ能ク心ヲ用ヒテ修メ善クス
ルモ之ヲ補闕ホクケツ 安日落アニシユロ 伊太利有名ノ雕像工畫工建造工ナリ嘗テ客アリテ
瓦舖ニ來リソノ畫ヲ石像ヲ造リ成シタルヲ見タリシカソノ後客再ヒ來タルニ安日落

カハ鐵石ノ像ヲ修メ居タリ客怪ンテ初度來訪以來如何ナル事ヲ爲サレシヤト問ヒ然
レバ安日洛ソノ像ヲ此彼ト指シテ予コノ所ヲ再ヒ修メタリコノ所ヲ礎キタリコノ
圓形ヲ柔テカニシタリコノ筋ヲ露ハセリコノ唇ニ言語ヲ與ヘタリコノ手ニ力ヲ添ヘ
テリトイヘバ客曰ク然レドモ、コレ皆鎖小ノ事ノミト安日落マダ答ヘテソレハ然モ
アルベシ然レドモ瑣小ノ事ハ全美ノ功ヲ成ス面シテ全美ノ功ハ瑣小ノ事ナラズト云
ヘリシトナリ

三十九、左ノ文ヲ口語ヲ用ヒテ分リ易キヤウニ解釋セヨ

心志ノ力剛毅ナルモノハ才氣足ラズト雖モ中途失望ノ事ナクシテ遂ニ成就ノ地位ニ
到ルベキナリ

人々才智ノ齊カラザルハ幼時ヨリ習ヒ養ナフト習ヒ養ナハザルニ關係スルコトナ
リ

忠臣ハ二君ニ仕ヘズ

四十、左ノ文ニ讀ム通りノ假名ヲ付ケヨ例ヘバ「我が邦列聖民ヲ保ツコト子ノ如ク、堯舜禹湯ニ譲ラズ。」ノ如シ

人或ハオモヘラク適宜ナル功業ハ世ニ怠忽セラルトコレ多クハ怠惰ニシテ志氣ナキ、人功績ヲ成スコト能ハザルニ由リテコレヲ以テ自ラ口ニ籍コトナリ蓋シ所謂適宜ノ功業ハ我ヨリコレヲ言ヘバ作用ナク要須アラザル功業ナリコレヲ要スルニ善ク教練シタル才能ハ常ニ必ズ要重ナル地位ニ顯ハルベシコレ怯心ニシテ家ニ居ルモノ、得テ望ムベキニアラズマタ人或ハ冒昧銳進ニシテ功名ヲ成スモノヲ誹リ隱退ヲ嗜ミテ世ニ棄テルヲ憐ムモノアリ然レドモコノ冒昧銳進スル人ノ中ニ往々事ヲ做スニ勤敏ナル好性質ヲ具スルナリサレバ吠狗ノ用ハ睡獅ヨリ大ナリト思ハザルベカラズ

四十一、左ノ文ニ讀ム通りノ假名ヲ附ケヨ例ヘバ「我が邦列聖民ヲ保ツコト子ノ如ク、堯舜禹湯ニ譲ラズ。」ノ如シ

國人隆興ハ國民ノ元氣ノ旺盛ナルニ由ル。元氣ノ旺盛ナルハ精神ノ陶冶ト身體ノ鍛

鍊トニ關セザルコト無シ

四隻ノ閉塞隊ハ驅逐隊及ビ水雷艇ノ掩護ノ下ニ旅順口港外ニ達シ、敵ノ探海燈ノ照射ヲ冒シテ港口ニ直進セリ。

四十二、左ノ文ヲ口語ヲ用ヒテ分リ易キヤウニ解釋セヨ、

廣瀨中佐ハ平時ニ於テモ常ニ軍人ノ鑑鏡タリシノミナラズ其ノ最後ニ於テモ萬世不滅ノ好鑑ヲ殘セルモノト謂フベシ

我日本種族タル者ハヨク版圖内ノ他種族ヲ同化シ其長所ヲ利用シテ人類ノ幸福ヲ進メ又ヨク在留人ヲ導イテ我帝國ノ幸福ヲ増進セシムベキナリ

四十三、左ノ語句ヲ口語ヲ用ヒテ分リ易キヤウニ解釋セヨ。

- (一) 一致協力
- (二) 三尺ノ秋水
- (三) 凱旋

- (四) 御位
- (五) 破帽弊衣
- (六) 空前絶後
- (七) 行啓
- (八) 行幸
- (九) 死守
- (十) 供御

四十四第一題 左ノ文ニ讀ム通りノ假名ヲ附クヨ例ヘバ「我が邦列聖民ヲ保テ」ト

子ノ如ク「堯舜禹湯ニ譲ラズ」ノ如シ

太田持資ハ、上杉定正ノ老臣ナリ。定正、上總ノ廳南ヲ攻メントシ、山際ノ海邊ヲ
 過ギントス。敵、山上ニ努ヲ備ヘテ之ヲ守レリ。定正騎ヲ駐メ、干瀉ヲ進マシ
 シ、人ヲシテ、潮ノ満干ヲ見シム。衆疑懼シテ進マズ。持資、「我レ見來ラン」ト

テ、馬ヲ馳セ出シ、ヤガラ歸リテ、「潮ハ干タリ」トイフ。イカニシテカ知リタルト

問ヘバ、

「遠クナリ近クナルモノ濱千鳥」

鳴ク音ニ潮ノ 満干ヲゾ知ル

ト云フ古歌アリ。今、千鳥ノ遠ク聞ユルニヨリテ、潮ノ干タルヲ知レリトイヘ
 リ。

第二題 左ノ文ヲ解釋セヨ

忠ト孝トハ、人道ノ至大ナルモノニシテ、臣タリ子タルモノ、一日モ忽ニスベカ
 ラザルモノナリ。犬尙三日ノ恩ヲ忘レズ。鳥能ク反哺ノ義ヲ知ル。人トシテ禽獸ニ
 如カザルベケンヤ。

邦家ノ盛衰ハ軍隊ノ強弱ニ基キ、軍隊ノ強弱ハ、士官ノ精否ニ由ル。
 内憂外患交々起ル。

第三題 左ノ句語ヲ解釋セヨ

寶踐躬行、駿馬、狼狽、行在所、廣袤、士氣沮喪、逆襲、裸體跣足

拂曉、聖意

四十五、左ノ文ニ讀ム通リノ假名ヲ附ケヨ例ハバ「我が邦列聖民ヲ保ツコト子ノ如ク、

堯舜禹湯ニ譲ラズ。」ノ如シ

余ガ家ハモト劍術ノ家柄ナリシカバ、父モ特ニ之ヲ獎勵セリ。余ガ師ハ島田虎之助

トイフ先生ナリ。此先生、余ニ向ヒテ「當時世間ニ行ハル、劍術ハ、タゞ形式バカ

リナリ。折角稽古セムト思ハバ、真正ノ劍術ヲ稽古スベシトイハレヌ。余其言ニ

感シ、遂ニ其塾ニ寄宿シテ、薪水ノ勞ヲ執リツ、修業セリ。

六日未明ニ起キテ、甲板ニ出ヅルバ、船ハ既ニ長崎港外ニアリ。檢疫ノ濟ムヲ待チ

テ、九時過ギニ上陸シ、先ヅ諏訪神社ニ詣ヅ。

四十六、左ノ文ヲ口語ヲ用ヒテ分リ易キヤウニ解釋セヨ

一小猴、人ノ髭ヲ剃ルヲ見テ刀ヲヌスミ、之ニ擬シテ自ラソノ鼻ヲ傷ツク。世ノ習
ハズシテ事ニ從フモノ、多クハ此類ナリ。

僅カニ郷里ヲ離レテ、己ガ國ノ都ニ在ルスラ、或ハ時ニ學ビノ窓ニ、郷里ヲ思フコ

トアルヲ免レザルベシ。

四十七、左ノ句語ヲ口語ヲ用ヒテ分リ易キヤウニ解釋セヨ

薪水ノ勞、獎勵、沃野千里、辯、辨、辨、戴、載、裁、裁、粗惡、

模範、惡事千里ヲハシル、人ハ一代名ハ末代、氏ヨリ育チ

四十八、左ノ文ニ讀ム通リノ假名ヲ附ケヨ例ハバ「我が邦列聖民ヲ保ツコト子ノ如ク、

堯舜禹湯ニ譲ラズ。」ノ如シ

宮城ニ重橋ノ前ナル廣場ニ於テ、天ニモ駈ケ登ルベキ勢ノ龍馬ニ跨リ、鍬形ノ兜ヲ

猪頭ニ著ケテ、鎧ノ袖ヲ風ニ靡カシ、鎧ヲ踏シ張リテ手綱ヲ搔イ取り、威風凜凜ヤト

シテ立テル武者ノ像アリ。コレヲ楠公ノ銅像トス。

韓國ハ我國トタマニ衣帶水ヲ隔ツルノミ。對馬海峽ヲ越エテ釜山ニ上陸スレバ、我居留地ナル三千ノ人家へ、此港ノ重ナル市街ヲ成セリ。釜山ヨリ汽車ニ乘リテ行ケル。二日ニシテ鴨綠江ノ畔ニ到着ス可シ。

四十九、左ノ文ヲ日語ヲ用ヒテ分リ易キヤウニ解釋セヨ

予曩ニ豆相ノ間ヲ遊歴セシ日、浦賀ヨリ下田ニ赴クトテ、相模灘三十餘里ヲ船ニテ行ケ程ニ、其日辛午ノ比、風ノ悪シクオリテ三崎ノ浦へ漕ギ寄セニケリ。人モ我レモ、船ヨリ上リテ旅店ニ逗留ス。

豫期以上ノ好果ヲ收メタリ。

五十、左ノ語句ヲ口語ヲ用ヒテ分リ易キヤウニ解釋セヨ

空前ノ事業　偉人　抵抗　博識　甲板　檢疫　威風凜々　破竹ノ勢
三軍　萬乘ノ君

作文

一、下ノ文中ノ名詞、副詞、動詞、形容詞ヲ摘出セヨ。庭ニ植エタル木モ、伸ビタルヲ抑ヘテ倒レタルヲ起シナドシテ、善キ姿トハ爲スナリ

二、左ノ動詞ヲ假名ニテ記セ
言、思、仕、競、互、支、效、擇、侮、悔

三、左ノ縦線アル語ヲ漢字ニテ記セ
ヒルハ字ヲカサ、ヨルハエヲエカク、彈丸ツキタリ、慾ニマドハズ、義ニカンズ、人ヲシラオモフ、サガミノ横須賀ニスマウヲコウギヤウス、錢ヲアタフ、コシニ乗ルハ

四、左ノ語ヲ假名ニテ記セ
笛、植木、家、愚、弟、襲、顔、伐、飢、飜

五、左ノ縦線アル語ヲ漢字ニ改メヨ
某ダシヌサハダイイチシダンヲケンエツセラル。

意氣ウチエウヲノム。

兵ヲインツツス。

ツツダフ、ネンレイ、リンシヨク。

六、左ノ文ヨリ名詞、代名詞、動詞、形容詞、副詞、接續詞、感動詞ヲ抽出セヨ。

思ヘバ、我が過チモ實ニ多キナリ。イデヤ、コレヨリ後ハ學ヲ勉メ、且ツ行ヒテ慎

ミ全ク過チ無キコトヲ期スベシ。

七、(イ) 左ノ口語ヲ文語ニ改メヨ

春ガキタカラ、花ガサイタ。

タマガツキテモ、シリゾカナイ。

(ロ) 左ノ線アル假名ニ漢字ヲ當テヨ

夜間ニテキダシヲウダキシテ急ニ其人ヲシニセマレリ。

ボンノウニテキンカトシハ、下ヲウカンセリ。

八、左ノ口語ヲ文語ニ改メヨ(成ルベク漢字ヲ用フベシ)

三笠ハオシマイニ、カヤクノクラガ、バクハツシタノデ、トウ／＼シツンデ、ウミ

ソツコニ膠著シタ。シカシ上カンバンヨリシタニハ、ヒ下イツンシヨガナイカラ、

ヒキアダノミヨミハ、タシカデアル。

九、(イ) 左ノ口語ヲ文語ニ改メヨ

クルシイコトヲコレヘルコトガ第一ダ。

クオシテフノジユンサモケガヲシタ。

(ロ) 左ノ線アル假名ニ漢字ヲ當テヨ

線クシロキシベントハ成功ノモト非ナリ。

キカイニ手ヲフレザル様チウイスベシ。

十、左ノ口語ヲ文語ニ改メヨ

コウソリト、テキ地ニ入ツテ、テキジャウヲサグツテキテ、クハシク之ヲシラセ

テキガホソツテ、キタノヲ、スグニウチシリジケタ。
人ヲアナドツテ、アトデ、クイテモ、オツツカナイ。

十一、係結ノ規則ヲ述ベヨ

十二、左ノ口語ヲ文語ニ改メヨ

ニワニ木ヲウエテアイスルコトモ心ヲヤシナウタスケニナル。ヒマノアルトキ、テニ
イリヤスイ、モノヲバ。アルニマカセテ、ウエルガヨイ。テニ、イラヌ、モノヲ、
ムリニ得ヤウトシタリ、カネヲ、タクサン、ダシタリシテ、ソノ花ノ、メヅラシイ
ノヲ、ジマンシ。シナノオ、イノヲ、アラソウノハ。カエツテ事ガウルサテ。心ノ
ワヅライニナツテ。タノシミデハナク。クルシミニナルデヤ。」

十三、辰 起

十四、作文ノ添削ヲ乞フ書

十五、清國神社(記事)

十六、書籍を借用する文(日用文)

十七、左ノ語ヲ漢字ニテ記セ

イクバク(ドレ)。キナイ五國。ギヤクサツ(ムゴク)。コクウ(ソラ)。エダ(木ノ)。ギ
ダイ(ワザ)。ジャウサイ(トリテ)。クイキ(カギリ)。インネン。ミドリイロ。タル
キ。

十八、左ノ口語ヲ文語ニ改メヨ、成ルベク漢字ヲ多く用ヒヨ

コノ國ノ人ハサクラヲスキ、支那人ハボタンヲスキ、西洋人ハバラヲスキマス。
ナルホド、香ノヨイノハバラニホヒツクモノハナク、イロツヤノウツクシイノハボ
タンガ一番デアリマスガ、ソレデアラムケハ雪トモ見エ、遠クデ見レバ雲トモ見エ
ルスガタノアルノハサクラノ外ニハアリマスナイ。

十九、天長節拜賀式ノ記

二十、友人ニ鑿劍ヲ勸ムル文

二十一、左ノ口語ヲ文語ニ改作セヨ、成ルベク漢字ヲ多用フベシ

(一) 金剛石ハ其ノミガキクツデサヘモカザリニツカハレル。

(二) ヨシ之ガホントニ惡イ事デアアルヒシテモ、死罪ニナルホドノ罪デアアルイ。

(三) 彼レダツテ之ヲ惡事ト知ツテシタノデハナイ、只其性分デシタバカリデアアル、惡事ト知ツテ惡事ヲシタモノコソ憎ムガヨイ、性分デシタモノヲ罰シテヨカロウカイ。

二十二、梅ヲ觀ルノ記

二十三、友人の怠惰を戒しむる文

二十四、講和ノ成立ヲ出征中ノ父ニ報ズル文

二十五、横須賀ニ軍艦ヲ見ル記

二十六、鑿劍ヲ見ル記

二十七、宮城ヲ拜觀シテ郷里ノ友人ニ報ズル文

二十八、雪中遠足ノ記

二十九、少年ノ出京ヲ止ムル文

三十、小學校卒業ヲ遠國ノ親戚ニ報ズル文

三十一、日比谷公園散歩ノ記

三十二、幼年學校志願を勸誘する文

(書翰文に作り平假名を用ふべし)

三十三、某海濱ニ遊フ記

(文體ヲ普通ノ漢字交リトス口語體ニナスベカラズ)

三十四、友人に書籍購求を依頼する文 (書翰文)

三十五、某園ニ桃ヲ觀ル記 (漢字交リ)

三十六、紀元節の記

三十七、友人の地方幼年學校入學を祝ふ文

三十八、甲、左ノ文ノ縦線アル假名ニ漢字ヲ當テヨ

ケイザイヲ談ジテ其ノカギリヲ知ラザレバ利ニハシルノヘイアリ、

キヌウリヲ説イテ其カギリヲ知ラザレバ天ヲオソレザルノヘイアリ、

乙、右ノ口語ヲ文語ニ改メヨ

仕事ヲスル時ハ、丁度勇士ガ陣頭ニ出タ様ニ、仕事ニ一心ニ成リ、仕事ヲ止

メタ時ハ、丁度逸人ガ風月ヲ弄ブ様ニ、九デ心ヲツカハズ、カラダヲ休メ

テ歌ツタリ走ツタリスル、之ガ、ホントニ善ク働キ善ク遊ブ者トイツテヨ、

イ

三十九、元旦ノ記

四十、借用ノ書籍ヲ返却スル文

四十一、左ノ文ノ縦線アル假名ニ漢字ヲ當テヨ

一代ヲウゴカシ百世ノ師トアラガルル人ハ必ズシモ天資エイピンノ人ニアラズシテ
クンゴノ志アリ強勉ノカアル人ニアリ。少年ノピンセウ、レイリナルハタノムニ足
ラズ。タトヒ天資チドンナリトモ刻苦ベンレイシテ善ク其ノ良心ヲ盡シ課程ヲ修ム
ル者ハ大ニシヤウライニノゾミアル者ナリ。

四十二、水泳ノ記

四十三、出征ノ友人ニ物ヲ贈ル文

四十四、(イ) 左ノ口語ヲ文語ニ改メヨ

ドウナルモノカ、ヒトトホリノコトデハナイ。ワタシバカリダ。

コレカラヨツボドシンボウセ子バナラヌ。

オモヒキツタコトヲヤルヒト。ワタシモウコレヲオモヒキツタ。

(ロ) 左ノ假名ニ漢字ヲ當テヨ

オタヤカナル天氣、シバト、フゾクヒン、シンセイナル天皇、

フヲヨノサイナン、ホリヨ一萬人、

四十五、暑中休暇中樂シキ一日ノ事ヲ記ス

友人ヨリ左ノ區別ヲ問ヘタルニ答フ書

頼入候、奉願候、申入候、申上候、

四十六、靖國神社祭ニ人ヲ招ク書

書簡中秋季冬季ノ用語ヲ如何ニ書スルヤ

四十七、團子坂ノ菊觀ヲ促ス書

我カ家ノ記

四十八、書簡中春季夏季ノ用語ヲ弟ニ諭ス書

上輩下輩ニ對スル首尾ノ用語

四十九、自己ノ寫眞ヲ父兄ニ贈ル書

修學旅行ノ記

五十、軍人たらん事を父兄に乞ふ文 (日用文)

五十一、得意ナル學術 (記事文)

五十二、日比谷公園ニ遊ブノ記

五十三、叔父ニ歳暮見舞ノ文

五十四、寒夜讀書ノ記

五十五、友人の陸軍地方幼年學校入學試験に及第せしを賀するの文

五十六、水泳ノ記 (普通文、口語體ニアラス)

五十七、友人の上京を賀する文 (書翰文、口語體ニアラス、假名ハ平假名ヲ用フベシ)

五十八、左ノ口語ヲ文語ニ改メヨ

徳川家康へ、ツチニ、ワガ威ヲタテナイデ、ケライノ、テガラヲヨロコビ、義氣ヲ

ホメタカラ、ケライドモモ、義ニイサミテ、君ノタメニ、身ヲステルコトヲ、イト

ヲモノハ、ナカツタ。織田、武田ノ諸將モ、智略ハスグレテキタケレドモ、ワガ威
力ニホコリテ、下ノ勇義ヲオサヘタモノダカラ、一旦ハサカエタガ、久シクハツツ
カナカツタ。

五十九、天長節ノ記 (普通文、口語體ニアラズ)

六十、登山に友を誘ふ文 (書翰文、口語體ニアラズ、假名ハ平假名ヲ用フベシ)

六十一、左ノ口語ヲ文語ニ改メヨ

武下ハ、ヲキヲキリ、人ヲコロス。ミチデアルカラ、仁トハ雪ト炭トホド、チガフ
モノ、様デアルガ、サウデナイ。武モ、ヤハリ、仁カラ出ナイノハ、ホントノ武ト
ハイヘナイ。スベテ、忠モ孝モ文モ武モ、皆マコノ心、即チ仁心カラ、ワキ出タモ
ソデナケレバ、ホントノ忠孝文武デハナイ。

六十二、元且ノ記 (普通文、口語體ニアラズ)

六十三、郷里にある父母の安否を伺ふ文 (書翰文、口語體ニアラズ、假名ハ平假名ヲ

用フベシ)

六十四、左ノ口語ヲ文語ニ改メヨ

人君ハ明ヲ貴ビテ、察ヲ貴バズ。明トハ、燭臺デザシキヲ、テラスヤウナモノデ、
ヒカリガタカクテ、モトガ、クライケレドモ、ザシキ中ヲ、アマネク、テラスコト
ガデキル。察トハ、紙燭デ物ヲ、テラスヤウナモノデ、モトガ、アカルクテ、小サ
イ物ヲ、見付ケルコトハ、デキルガ、トホイ方マデ、テラスコトハデキナイ。ダカ
ラ人君ハ燭臺ノヤウニ明デアツテ、紙燭ノヤウニ察デアツテハナラス。

六十五、雪中遠足ノ記 (普通文、口語體ニアラズ)

六十六、風邪に罹れる人を見舞ふ文 (書翰文、口語體ニアラズ、假名ハ平假名ヲ用フ

ベシ)

六十七、左ノ口語ヲ文語ニ改メヨ

天下ノ法ハ、大キクユルヤカデ、大河ノヤウデ、アルガヨイ。コマヤカデ、小ミソ

ノキウゾハ、イケナイ。大河ハ大キイカラ、之ヲヨケルコトガデキルガ、フカクテ、ヒロイカラ、オシロシクテ、バカニデキナイデ、ヲカスモノガナイ。小ミゾハ小イカラ氣ガツカナイデ、ヨケソコナフコトガ、アルガ、アサクテ、セマイカラ、コハクナクテ、バカニシテ、ヲカスモノガ多イ。ダカラ、法ハ、大河ノヤウニ、ユルヤカニ大キクシテ、ヨケヤスク、ヲカシニクク、スルガヨイ。

算術

一、周圍三百尺ノ池邊ノ一所ヨリ甲乙丙ノ三人同時ニ廻リ始メ毎分時ニ甲ハ百五十尺乙ハ百尺丙ハ六十尺ノ速サニテ歩ムトキハ幾分時ノ後三人再ヒ同時ニ原所ニ來ルハキカ

二、次ノ式ヲ簡單ニセヨ

$$\frac{5\frac{1}{5} \times 3\frac{1}{8} \div 2\frac{3}{5}}{3\frac{1}{8} \times 5\frac{1}{5} - 2\frac{3}{5}}$$

三、四ツノ分數 $\frac{45}{23}$ 、 $\frac{60}{31}$ 、 $\frac{100}{51}$ 、 $\frac{25}{13}$ ノ中最大ナルモノト最小ナルモノトノ和ハ

他ノ二ツノ差ヨリモ幾何大ナルカ

四、將校會議ニ於テ準備ノ椅子八個不足セシ故ニ準備セシ元ノ椅子ノ數ノ二分ノ一ヲ増シタルニ十二個残りタリト云フ會議ニ列セシ將校ノ人員如何

五、 2.372 ヲ分數ニ化セヨ

六、毎時一里十三町三十間ヲ行ク人カ十一里二町四十間ヲ行クニハ何時間ヲ要スルカ

七、農夫五十四人ニテ十六日間毎日十時間宛働キ田地四町八段耕セリ今幾人ヲ使役セハ毎日八時間働キテ七日間ニ田地二町八段ヲ耕シ得ヘキカ

八、上米一斗四舂ハ中米一斗五舂替ヘ中米二斗一舂ハ下米二斗四舂替ニシテ金一圓ニ付キ上米六舂替ナルトキハ下米ハ金一圓ニ付何舂替ヘナルカ

九、二里二十三町ノ里程ヲ四十五錢ニテ人力車ニ乗リタル割合ニテ三里十二町ノ里程

ヲ乗ルニハ何程ノ賃錢ニテ宜シキカ

十、兵士四千人ニテ籠城スルニ一人ニ付毎日四合ツ、トシテ五十日間ヲ支フル糧米アリシカ五週間ノ後一千人ノ援兵到着セリ因テ以後一人ニ付毎日三合ツ、トセハ残りノ糧米ニテ尙幾日間支フルコトカ出來ルカ

十一、富士、橋立、鎮遠ノ三軍艦アリ其速力富士ト橋立トハ九ト八トノ比ニシテ富士ト鎮遠トハ六ト五トノ比ナリトイフ而シテ鎮遠ノ速力十五節ナリトイフ橋立ノ速力何程ナルカ

十二、半紙一締(百帖)ノ内十帖タケヲ殘シテ其餘ヲ兄弟三人ニ與フルニ次子ニハ長子ノ四分ノ三、末子ニハ長子次子ノ和ノ七分ノ二ニナサントス、各幾帖ツ、與ヘテ宜シキカ

十三、列車ノ全長三十(メートル)ノ氣車カ每秒九(メートル)ノ速力ニテ長サ百九十五(メートル)ノ橋ヲ通過スルニ幾秒時ヲ要スルカ

十四、一俵三十五錢ノ酒四十二俵アリ之ニ水若干ヲ混シ每俵三十錢ニ賣リテ損益ナカラシメントス混スヘキ水ノ量ヲ求ム

$$\begin{array}{l} \text{(一)} \\ \frac{2}{3} \times 3 \frac{3}{4} \\ \hline 3 \frac{2}{3} + 3 \frac{3}{4} \\ \hline \text{此式ノ値} \\ \text{ヲ求ム} \end{array} \qquad \begin{array}{l} \text{(二)} \\ \frac{2}{3} + \frac{4}{5} \times \frac{5}{9} - \frac{8}{21} \\ \hline 1 + \frac{2}{3} \times \frac{5}{7} - \frac{5}{9} \\ \hline \text{同上} \end{array}$$

十五、米二百八十四俵八分六厘四毛アリ之ヲ以テ麥ニ換ヘントスルニ米一俵ノ價ハ麥一俵四分六厘四毛ニ等シト云フ由テ間フ麥幾俵ヲ得ヘキカ

十六、絹百三十反ヲ金五百七十六圓三十四錢五厘ニ賣リテ八反ノ元價ヨリ一反ノ元價ノ七分七厘五毛少ク利益アリト云フ一反ノ元價幾何ナルカ

十七、或人七十二里十二町二十間ノ里程ヲ一時間七里十町四十間走ル汽車ニテ進ムト

キ七時間ノ後チ尙ホ幾里程ヲ殘スカ

十八、或人六時四十一分二十六秒間ニ七十二佛里二五八ヲ行ケリト云フ毎時ノ速度如何

十九、某學校生徒ニ鉛筆千八百八十四本ヲ分配スルモ紙三千百四十枚ヲ分配スルモ毛筆二千三百五十五本ヲ分配スルモ各得ルトニコロ相等シクシテ過不足ナシト云フ生徒ノ人數ハ幾何ナルカ

二十、測量船アリ海ノ深サヲ測ルニ最初ニ測鎖ノ三分ノ二ヲ投シタレトモ海底ニ達セズ依テ尙殘リノ四分ノ三ヲ投セシニ正ニ海底ニ達シ尙測鎖八十米ヲ餘セリト云フ海ノ深サ幾米ナルカ

二十一、 $47 \cdot 08 \times 29 \cdot 043$ ヲ $519 \cdot 2 \times 80 \cdot 27$ ニテ割リタル商ヲ小數第四位マテ計算セヨ

二十二、我國ノ「トンネル」ノ最モ長キハ管子「トンネル」ニシテ其長サ一萬五千二百四

十六尺其工事ニ費セシ金高ハ二百二十一萬四千圓ナリシトイフ平均一間ニ付何程ノ費用ニ當ルカ

二十三、甲乙二人自轉車ニテ或所マテ行カンコトヲ約セシニ乙ノ速度ハ甲ヨリ小サキユエニ甲ハ乙ヲ十二分間先ニ出發セシメシニ三十哩行キシトキ乙ニ追付タリトイフ今乙ノ速度ヲ一時間ニ二十五哩トスレハ甲ノ速度何程ナルカ

二十四、工兵六十人ニテ長サ八百米幅八米深二米ノ溝ヲ堀ルニ四十日間カ、ルトスレハ工兵四十八人ニテ長サ三百二十米幅七米半深二米ノ溝ヲ堀ルニ幾日間カ、ルカ

二十五、次ノ各數ヲ素因數ニ分テヨ

第一 1140 第二 29925 第三 2431

二十六、209, 323, 221 ノ最小公倍數ヲ求メヨ

二十七、 $2.5 \times \frac{1}{3} + \frac{1}{4.25}$

ヲ簡單ニシ其結果ヲ分數ニテ示セ

二十八、東西兩市ニ各一人ノ脚夫アリ而シテ甲ハ一日ニ兩地ノ距離ノ五分ノ一ヲ行キ乙ハ六分ノ一ヲ行ク今モシ甲乙同時ニ相向ヒテ出發セバ幾日ニシテ相逢フヘキカ又若シ同時ニ同方向ニ出發シテ甲カ乙ノ跡ヲ追ハ、幾日ニシテ追ヒ付クヘキカ

二十九、時間ノ十分間ニ時計ノ長針短針ハ各々幾何ノ角度ヲ行クカ

三十、甲乙兩街道アリ甲ハ其里程七里二十五町三十間ニシテ乙ハ二十九「キロメートル」ナリト云フ甲乙孰レカ近キカ又幾町ノ差アルカ

三十一、獵犬ノ兎ヲ追フアリ兎カ五間走ル間ニ犬ハ七間走ル又犬カ兎ヲ見附タルトキノ距離百三十間アリシト云フ犬カ兎ヲ捕ヘシ迄ニ兎ハ幾何間逃走セシカ

三十二、工夫百五十人ニテ毎日八時間ツ、業ヲ執リ毎月二十四日ツ、働キ七ヶ月間ニ成業スヘキ一事ヲ工夫百二十人ニテ毎月二十八日ツ、働キ六ヶ月間ニ成業セシメンキハ毎日幾時間ツ、業ヲ執ラシムヘキカ

三十三、雇人ノ賃錢男四人分ト女七人分ト相等シク男一人分ノ賃錢ハ三十五錢ナリト

三十四、女ノ賃錢如何

三十五、甲乙兩人同時ニ同所ヲ出テ、反對ノ方向ニ行クニ甲ハ毎日十六里乙ハ十四里ヲ歩ムトキハ兩人百五十里ヲ距ルハ幾日ノ後ニアルカ

三十六、或工場ニ於テ一月ニ使用スル石炭ノ代價ハ千二百八十六圓二十五錢ナリトイフ、然ルトキ毎日消費スル石炭ノ斤數如何但石炭一萬斤ノ價ヲ三十五圓トス

三十七、小麥若干俵アリ之ヲ一俵ニ付三圓五十錢ノ大麥同數俵ト交換スレハ二十八圓ノ損ヲナシ又若シ一俵ニ付六圓ノ米同數俵ト交換スレハ四十五圓ノ益アリトイフ小麥ノ俵數如何

三十八、音響ノ速サハ一秒間ニ三百三十米ナリ之ヲ我里法ニテ表セハ幾町幾間幾尺ナルカ

三十九、圓周カ直徑ニ於ケル比ハ約次ノ二數ニ等シ其差ヲ求メヨ

3* 1415929, 355
113

三十九、和文電信料ハ始メ十五字ノ料二十錢ニシテ五字加ハル毎ニ(五字以内又之ニ同シ)五錢ヲ増スモノトス四十八字ノ電信料如何

四十、長さ四十八間ノ堤防ヲ築カントシ百七十一人ノ人夫ヲ雇ヒ十二日間ニ漸ク十八間ヲ造リト云フ今更ニ二十七人ノ人夫ヲ増ストキハ殘業ヲ幾日間ニ成シ終ヘルキ

四十一、二整数アリ其積五百六十八ナリ一數ハ五十ヨリモ大ニシテ百ヨリモ小ナルト

四十二、米千二百二十四俵及麥千九十八俵ヲ別々ニ荷車ニ積ムニ各車ノ俵數相等シク且以端數カク荷車ノ數ヲ成ルヘク少カラシメントス各車ニ載スル俵數如何

四十三、左式ヲ簡單ニシ且ツ其結果ヲ小數ニ化セヨ
但シ小數三位マテ求ムヘシ

$$\frac{21}{2} \times \frac{34}{5} - \frac{31}{2} \times \frac{22}{5}$$

$$\frac{73}{5} \times \frac{41}{2} - \frac{71}{2} \times \frac{41}{5}$$

四十四、金三千圓ヲ甲乙二人ニ分配セシニ乙ハ甲ノ三分ノ二ヲ得タリト云フ各所得金ヲ求ム

四十五、石油九升六合八ノ罐二個ヲ以テ一箱トシ十五箱三十六圓ナルトキ一升ノ價何程ナルカ

四十六、或人白米三斗六升ヲ買ヒ五圓紙幣ヲ拂ヒタルニ尙ホ白米一升六合分ノ價ト金十六錢不足セリトイフ此白米一升ノ價如何

四十七、兄ハ鉛筆三十六本弟ハ十四本ヲ所持ス今弟ヨリ兄ニ幾本ヲ與フレハ兄ノ所有ハ弟ノ四倍トナルカ

四十八、(1.255 x 0.0064 + 2.2) x 0.0032 此ノ値如何
四十九、五艘ノ船アリ米ヲ積ミテ入港シ之ヲ穀商十三人ニ分クシニ各商三百九十五俵

ヲ得タリトイフ、平均一艘ニ付幾俵ヲ積ミシヤ
 五十、二隊ノ兵アリ其人員合計七百十六人ニシテ甲隊ハ乙隊ノ三倍ヨリ少キコト百十
 六人ナリトイフ、兩隊各々幾人ナルカ

五十一、七百十四町隔タ火タル兩市ヨリ甲乙脚夫相向テ同時ニ出發シ而シテ其速力甲
 ハ毎時五十四町乙ハ四十八町ナリトイフ、然ルトキハ出發セシトキヨリ幾時ノ後チ
 相會スルヤ

五十二、 $(9.5 - 8.625 + 1.75) \times 54 \div 0.126$ ヲ計算セヨ

五十三、次ノ式ヲ計算セヨ

$$(18 \times 17 \div 9 - 1) \div 24 \div 3$$

五十四、東庫ニハ八千三百個、西庫ニハ二千五百個ノ砲彈アリ毎日東庫ヨリ百七十個
 ヲ出シ、西庫ニハ百二十個ヲ入ルトキハ幾日ヲ經テ兩庫ノ彈數等シクナルヘキヤ

五十五、次ノ二數ノ最小公倍數ヲ求メヨ

$$1127 \quad 3450$$

五十六、次ノ式ヲ簡單ニセヨ

$$\frac{1\frac{1}{4} \times \frac{2}{3}}{\frac{3}{5} + \frac{5}{19}} + \frac{5 + \frac{6}{9}}{7 + \frac{8}{9}}$$

五十七、二十七町八間ニハ四ヲ乘セヨ

五十八、緯度ノ一ハ約一哩ニ等シク緯度ノ一ハ約111杆ニ等シ然ラハ一哩ハ幾杆ニ當ル
 カ

五十九、京濱間十八哩ヲ五十分間ニ走ル割合ニテ東京神戸間三百七十六哩三十一鎖ヲ
 走ルニハ幾時間ヲ要スルカ 但一哩ハ八十鎖ナリ

六十、農夫五十四人ニテ十六日間毎日十時間宛働キ田四町八段ヲ耕セリ今幾人ヲ使役
 セハ毎日八時間働キ七日間ニ田二町八段ヲ耕シ得ヘキヤ

六十二、石油若干アリ毎夜之ヲ三合ツ、用フレハ二十八日間用フルコトヲ得ルト云フ、今且石油ヲ毎夜四合ツ、用フルトキハ幾日早ク盡クルカ

六十二、二本ノ電柱アリ其距離千五百六十八間ナリ、今此間ニ更ニ二十七本ノ電柱ヲ等距ニ樹テントス相隣レル兩柱ノ間隔ヲ尙間トシテ可ナルカ

六十三、貨幣二十錢銀貨十錢銀貨ヲ取り混セテ五十個ニシテ七圓ノ金高ノモノヲ作ラントス各銀貨幾何ツ、ニシテ可ナルカ

六十四、六斗四升入ノ麥一俵ノ價ハ二圓五十六錢ナルトキハ金一圓ニ付幾何ナルカ又其麥一石ノ價如何

六十五、東京ヨリ京都マテノ鐵道哩數ハ三百二十九哩ニシテ一哩ハ40978里ナリトスルトキハ東京ヨリ京都マテノ鐵道里程如何

六十六、或ル動物園ノ入場料ハ參錢學校生徒ニ限り一錢ナリ或ル月ノ入場人員總計四千五百七十四人入場料百圓四十八錢アリシトイフ此人員總計中ニハ學校生徒幾人アリシカ

リシカ

六十七、106575 + 900675 ノ最大約數ヲ求ム

六十八、 $14 \times \frac{5}{8} \times 74 \frac{1}{6}$ + (543.706 - 296.456) ヲ簡單ニセヨ

六十九、或ル距離ヲ或ル速度ニテ行クニ六時間ヲ要ス今距離ヲ $1 \frac{1}{4}$ タケ減シ速度ヲ $1 \frac{1}{2}$ タケ増ストキハ之ヲ行クニ幾何時間ヲ要スルカ

七十、汽車カ十八哩走ル間ニ馬車ハ三里行キ馬車カ五里走ル間ニ人力車ハ四里行キ自轉車ノ速度ハ人力車ノ速度ノ二倍ナリトス今假リニ五哩ハ二里ニ當ルトスルトキハ汽車カ十哩走ル間ニ自轉車ハ幾里走ルカ

七十一、或ル學校ノ生徒ノ總人員千四十四人從來ヨリ在學ノ生徒ト新人生トノ割合ハ四十一ト十七トノ如シトイフ從來ヨリ在學ノ生徒ノ人數如何

七十二、甲乙二種ノ麥粉アリ一斗ノ價甲ハ八十錢ニシテ乙ハ九十四錢ナリ今此二種ヲ混合シテ一斗八十八錢ノ麥粉四石二斗ヲ得ント欲ス各幾何ヲ取ルヘキカ

七十三、或農夫アリ家畜一頭ニ付二十四圓ニテ七十五頭ヲ賣リ、其金額ヲ以テ一羽二圓ナル鶏ヲ買ハントス、幾羽買フコトヲ得ルカ

七十四、金七十錢ヲ以テ一帖ニ付二錢ト三錢ノ半紙ヲ同數タケ買ハントス、幾帖ツ、ヲ買ヒ得ルカ

七十五、 $0.212 + 0.012$ 此値ヲ問フ

0.07×0.00128

七十六、神戸ヒリ下關マテ鐵道里程ハ 330.8625 哩ニシテ此間ヲ汽車ノ通行スル時間カ 1.3 時、其途中停留時ハ、1.75 時ナルトキハ此汽車一時間ノ速度ハ幾哩ナルカ

但シ哩ノ小數ニヲ求メ以下四捨五入セヨ

七十七、 $(257 + 148 - 369) \times 7 \div (8 - 9)$ ノ値ヲ問フ

七十八、獵夫アリ銃九十萬發ヲ貯藏シ猶ホ日々百發ヲ鑄造ス然レトモ毎日放ツコト百

五十發ナリト云フ幾日ヲ歷ナハ銃丸全ク盡クヘキヤ

七十九、舟子カ靜水ニ於テ舟ヲ漕クニ一時間ニ三哩ノ割合ナルアリ今流水ヲ漕キ下ル

ゴト九時間ニシテ四十五哩ノ地ニ達セリ流水ノ速サヲ問フ

八十、或人金三圓六十錢ヲ受取リタルニ二十錢銀貨ト五錢白銅貨トヲ混シテ其數合計

三十個アリト云フ各貨ノ數ヲ問フ

八十一、 $(5.25 \div 3 \cdot 736) \times 2.75 - 9.87 \div 0.25$ ヲ簡單ニセヨ

八十二、五里 五十四町 五十八間ニ $1 \frac{3}{19}$ ヲ乘セヨ

八十三、一隊ノ兵士ニ毎日一石二斗六升ノ食米ヲ與ヘテ二十五日ヲ支フヘキ糧アリ之ヲ以テ四週間ヲ支ヘンニハ毎日幾何ツ、ニスヘキカ

八十四、甲ハ一步ニ三尺八寸ヲ走リ乙ハ一步ニ三尺五寸ヲ走リ又甲カ七歩スル間ニ乙ハ八歩スルトキハ乙カ二百六十間ヲ走ル間ニ甲ハ幾間ヲ走ルカ

八十五、幅九尺ノ窓アリ之ニ幅二寸ノ格子二十二ヲ等距ニ打ツトキハ相隣接スル二格子ノ間隙ハ何寸ナルカ

$$\begin{array}{c} \text{八十六、} \\ \left(\begin{array}{c} \frac{3}{4} + \frac{7}{3} - \frac{7}{9} \\ \frac{4}{7} + 3 - \frac{4}{6} \end{array} \right) \div \frac{9}{4} \end{array} \quad \text{ヲ簡單ニセヨ}$$

八十七、 $2\frac{3}{4}$ ヲ分数ニ化セヨ

八十八、貫ハ幾「キログラム」ニ當ルカ

八十九、甲級四百二十人、乙級三百三十人、丙級五百十人ノ各級ヲ最多ナル等人数ノ

隊ニ分ケントス各級ノ隊數幾何ナルカ

九十、 $\frac{101}{13}, \frac{7}{17}, \frac{86}{11}$ ノ中ノ最小ト最大トヲ選ミ出セ

九十一、金二千四百圓ヲ甲乙二人ニ分配セシニ乙ハ甲ノ三分ノ二ヲ得タリト云フ各所

得金ヲ求ム

$$\begin{array}{c} \text{九十二、} \\ \frac{3}{4} - \frac{2}{3} \times \frac{1}{2} - \frac{1}{9} \end{array} \quad \text{ヲ簡單ニセヨ}$$

$$\left(\frac{4}{2} - \frac{2}{3} \right) \div \left(\frac{3}{3} - \frac{1}{6} \right)$$

九十三、米貨一弗ハ我金貨二圓ニ當リ我金四十錢ハ佛貨一「フラン」ニ當ルトキ八百「フラン」ハ米貨幾何ニ當ルヤ

九十四、軍用「ピスケット」十一萬四千斤ヲ戰地へ送ランカ爲メ三箇所ノ製造所へ毎日

ノ製造出來高ヲ問ヒ合セシニ甲ノ製造所ニテハ七日間ニ二千斤乙ノ製造所ニテハ八

日間ニ二千五百斤丙ノ製造所ニテハ十二日間ニ三千斤ヲ製造スヘシト答ヘタリサス

レハ各製造所ニ幾斤宛製造スレハ同時ニ出來上ルカ

九十五、一個二錢五厘ノ蜜柑ト一個五錢五厘ノ林擒ト取りマセテ七十五個買ヒタルニ

平均一個三錢五厘ニ當リシト云フ各幾個ツ、買ヒタルカ

九十六、獵夫アリ銃丸九十萬發ヲ貯藏シ猶ホ日々百發ヲ鑄造ス然レトモ毎日放ツコト百

五十發ナリト云フ由テ問フ幾日ヲ歷ナハ銃丸全ク盡クヘキカ

九十七、父ノ年四十歳子ノ年八歳ナレハ今ヨリ幾年ノ後チ父ノ年ハ子ノ年ノ三倍ニ當

ルカ

九十八、周圍三百二十間ノ池アリ甲ノ人ハ毎分時六十間乙ノ人ハ同百間ノ速サヲ以テ同處ヨリ同方向ニ廻レハ幾分時ノ後相會スヘキカ

九十九、或人金若干錢ヲ貧民ニ分ツニ一人前七錢宛與フレハ三十四錢殘リ九錢與フレハ二十八錢不足スト云フ因テ問フ貧民ノ數如何

百、 $0075 \times 2.1 + .07$ ノ値如何
 $.0175$

百一、 $7.375 - 2.681$ ノ値如何
 $2.8 - 2.43$

百二、或工女毎時三尺八寸二分五厘三毛ヲ織ル割合ニテ毎日八時間働キ五十七日ニハ何程ヲ織ルヘキカ

百三、溜池ニ滿ル水アリ今其 0.0375 ヲ失ヒ且ツ六百五十「ガ」ルロン「ヲ」汲出ストキハ恰モ其半ヲ殘スニ至ルト云フ因テ問フ全量幾何ナルカ

百四、歩兵四百二十人砲兵三百八十五人ヲ各若干班ニ分チ各班ノ人員ヲ等シクシ且ツ

班數バ成ルヘク少ナカラシメントス各班ノ兵數ヲ求メヨ

百五、次ノ式ヲ簡單ニセヨ
$$4 + \frac{1}{10 \frac{5}{9}}$$
$$\frac{2 - \frac{3}{5}}{4 - \frac{5}{6}} \quad \frac{2 + \frac{3}{5}}{4 \frac{5}{6}}$$

百六、或ル數ノ $\frac{5}{7}$ カ $\frac{48}{7}$ ナルトキ同シ數ノ $\frac{3}{4}$ ハ幾何ナルカ

百七、人アリ若干里ノ所ヘ旅行スルニ初日ニ汽車ニテ七十四里ヲ行キ次日ヨリ步行シテ殘里數ノ七分ノ三ヲ進ミシニ尙ホ四十里ヲ剩セリト云フ全里數如何

百八、 $12.764 + 30.5) \times .25$ ヲ簡單ニセヨ
 $1.6315 + 0.2825 + 0.79$

百九、圓周ハ殆ント其直徑ニ 3.1415 ヲ掛ケタルモノニ等シ今地球赤道ノ長サハ 40075.45 キロメートルトスルトキハ其直徑ハ幾里幾町ナルカ 但シ町ノ小數ハ四捨五入

百十、水桶ニ甲乙二管ヲ具フ其徑甲ハ一寸二分ニシテ乙ハ八分ナリ而シテ甲管ヲ以テ水ヲ注入スルトキハ七時二十八分ヲ要ス然ラハ乙管ヲ以テ水ヲ注入スルトキハ幾時間ヲ要スルカ、但同時間ニ注入スヘキ水ノ量ハ管ノ徑ノ平方ニ比例ス

百十一、兵士三千人ニ一日ニ支給スヘキ食料ハ米價一石ニ付金十二圓ナルトキ二百二十八圓ナリト云フ今米價騰貴シテ一圓ニ付八升トナリシヲ以テ一人一日ノ食糧十分ノ一ヲ減シタリ、然ラハ千五百九十六圓ニテ兵士二千八百人ノ幾日間ノ食料ニ充テ得可キカ

百十二、兎ハ一時分間ニ百十五間ヲ走り犬ハ百五十間ヲ走ル犬ハ兎ヨリ後方二百八十間ニアラハ幾分ニシテ兎ニ追ヒ付クヘキカ

百十三、金一萬八千六十三圓三十錢ヲ二十六人ニ分配スルニ其内ノ二十一人ハ各々金六百二十七圓五十錢ヲ得タリト云フ自餘ノ人ハ各々金幾何ヲ得ルカ

百十四、 $(37.1 - 19.08) \times 0.703$ ノ値ヲ問フ

百十五、梨四個ト桃九個トハ其價相等シ而シテ梨十五個ノ價ハ二十七錢ナリト云フ桃

二個ノ價ヲ問フ

百十六、次ノ三數ノ最大公約數ヲ求メヨ

264, 360, 600.

百十七、周圍三百尺ノ池邊ノ一所ヨリ甲乙丙ノ三人同時ニ廻リ始メ毎分時ニ甲ハ百五

十尺乙ハ百尺丙ハ六十尺ノ速サニテ歩ムトキハ幾分時ノ後三人再ヒ同時ニ原所ニ來

ルヘキカ

百十八、

$$\frac{\frac{3\frac{1}{3}}{4} + \frac{7\frac{1}{3}}{3} - \frac{7\frac{2}{9}}{6}}{\frac{9}{8\frac{1}{4}}}$$

ヲ簡單ニセヨ

百十九、人アリ若干里ノ所ヘ旅行スルニ初日ニ汽車ニテ七十四里ヲ行キ次日ヨリ歩行シテ殘里數ハ七分ノ三ヲ進ミシニ尙ホ四十里ヲ剩セリト云フ全里數如何

百二十、或生徒カ自宅ヨリ學校マテノ道程ヲ測リタルニ一里三町二十五間アリタリト

百二十三、然テハ一週間(日曜日ヲ除ク)ニ通學ノ爲メ幾何ノ路ヲ行クカ

$$\frac{\left(\frac{1}{27} + 0.25\right) \times \left(\frac{1}{2} - 0.6\right)}{\frac{4}{21} - \frac{1}{5.5 + 0.75}} \quad \text{ヲ簡單ニセヨ}$$

百二十三、甲ノ職人カスレハ十二日乙ノ職人カスレハ十六日カ、ル仕事アリ今此仕事ヲ甲カ九日間シタル残りヲ乙カナセハ幾月間カ、ルヘキカ

地理

百二十四、九州ノ略圖ヲ畫キ左ノ地名ヲ適當ノ位置ニ記シ且ツ此ニ就テ重ナル事實ヲ圖外別ニ記スヘシ

小倉、博多、佐世保、長崎、口津、三池、熊本、鹿兒島、宮崎、大分、

二、左ノ地名ノ所在國名ヲ記セヨ

下田、久里濱、大湊、清水、釜石、西郷、室蘭、串本、宇和島、三角、

三、地球上五帶ノ區別ヲ記シ各帶ニ屬スル地名一ツヲ舉クヘシ

四、我が國ノ重ナル鑛產物ノ名及ヒ其產地ノ名ヲ記スヘシ

五、我が國各海軍區ノ軍港名及ヒ所在國名ヲ記スヘシ

六、我が國ノ府縣中人口ノ最モ密ナルモノト最モ疎ナルモノト各二ツヲ舉ケヨ

七、地軸、赤道、經緯線トハ何カ

八、東京ノ正午ハ臺灣ノ何時ト同時刻ナリヤ

九、日本ニテ米ヲ最モ多ク産スル府縣ハ何ナリヤ

十、北海道ノ氣候ヲ記スヘシ

十一、晝夜ノ區別ハ如何ニシテ生スルカ

十二、四國ノ鐵道ヲ記スヘシ

十三、日本ニテ石炭ヲ最モ多ク産スル府縣ハ何ナリヤ

十四、臺灣ノ氣候ヲ記スヘシ

- 十五、夏ハ何故ニ暑ク冬ハ何故ニ寒キカ
- 十六、臺灣ノ河ノ特性ヲ記スヘシ
- 十七、日本ニテ牛馬ノ頭數多キ府縣ハ何ナリヤ
- 十八、山陰山陽兩道氣候ノ差異ヲ記スヘシ
- 十九、地球ノ球狀ナル證ヲ記スヘシ
- 二十、日本帝國ノ領土ヲ成セル大島ノ名ヲ一々記スヘシ
- 二十一、我方海軍鎮府守所在ノ地名ヲ舉ケヨ
- 二十二、地球ノ形狀球ニ近キコトヲ證明セヨ
- 二十三、日本ノ主要ナル大火山脈ノ名ト其ノ走レル方向トヲ各別ニ舉ケヨ
- 二十四、四國島ヲ如何ナル縣ニ區劃セラル、カ又其ノ縣廳所在地ヲ列舉セヨ
- 二十五、晝夜ノ別ハ如何ニシテ生スルカ
- 二十六、朝燒夕燒ハ如何ニシテ生スルカ

- 二十七、臺灣ノ河ノ性質ヲ記スヘシ
- 二十八、太平洋沿岸ノ重ナル半島ノ名ト其位置ノ大要ヲ記スヘシ
- 二十九、日本海沿岸ノ氣候ト太平洋沿岸ノ氣候トヲ比較セヨ
- 三十、晝夜ノ長短ハ如何ニシテ生スルカ圖ヲ加ヘテ説明スヘシ
- 三十一、瀬戸内海ニ沿ヒタル國名及所轄府縣名ヲ記スヘシ
- 三十二、我方國ノ重モナル海峽ノ名ト其ノ位置ノ大要トヲ記スヘシ
- 三十三、我方國ノ鐵、石炭、金ノ重モナル産地ヲ記スヘシ
- 三十四、地球ノ球形ナル證ヲ記スヘシ
- 三十五、北海道ノ鐵道ニ就テ記スヘシ
- 三十六、我方國ノ重大ナル産物ノ名ト其産地トヲ記スヘシ
- 三十七、臺灣ノ海岸ノ性質ヲ記スヘシ
- 三十八、我國ヲ成セル五大島ノ名ヲ面積ノ大ナルモノヨリ順序ニ記スヘシ

- 三十九、臺灣ノ時刻ニテ午後一時ハ東京ノ時刻ニテ何時ニ當ルカ
- 四十、我が國ノ重要鑛産物ノ名二種及ヒ其ノ主要産地ヲ記セ
- 四十一、一ノ關、二本松、三角、四日市ハ各何レノ縣ニアリヤ
- 四十二、我が國人口十萬以上ノ都會ノ名ヲ人口ノ多キモノヨリ順序ニ記スヘシ
- 四十三、日本ニテ晝ナルトキ亞米利加ニテハ前ノ日ノ夜ナリト云フ其ノ理如何
- 四十四、本邦中海ニ沿ハサル國ノ名ヲ擧ケヨ
- 四十五、七尾灣、八王子町、九重山、十和田湖、十三湯ハ各何レノ府縣ニアリヤ
- 四十六、經度緯度トハ何カ
- 四十七、奥羽地方ノ地形ヲ略記セヨ
- 四十八、左ノ地ノ所在府廳縣名及ヒ其ノ産物ヲ記セヨ
- 野田、夕張、小坂、桐生、味野、有田、相川、長濱、國分、米澤、
- 四十九、關東地方ノ氣候ヲ述ベテ其保養地ヲ列擧セヨ

五十、九州ノ略圖ヲ描キテ主ナル山川及都邑ヲ記入セヨ

五十一、左ノ物産ニ於テ産額最モ多キ地方ヲ示セ

米、食鹽、酒、昆布、陶器、漆器、石炭、石油、生糸、樟腦、

歴史

- 一、御肇國天皇ノ御治績ヲ記セ
- 二、壬申ノ亂ノ顛末ヲ問フ
- 三、齊明天皇ノ代ニ於ケル三韓トノ交渉始末ヲ略叙セヨ
- 四、源氏ノ勢力カ東國ニ扶植セラシ所以ヲ問フ
- 五、(一) 承久ノ亂ヲ略記セヨ
- (二) 左ノ人々ノ事蹟ヲ問フ
- 村上義光、藤原道長
- 六、承久ノ役

七、蒙古ノ侵寇

八、左記ノ人名ニ就キ知ル所ヲ記セ

藤原信賴、以仁王、小西行長

九、左記稱呼ヲ説明セヨ

一、院政、二、廢藩置縣

十、大化ノ改革

十一、左記戰亂ノ大概ヲ記セ

一、四條蝦ノ戰、二、明治七年佐賀ノ亂

十二、左記人名ニ就キ知ル所ヲ記セ

一、藤原不比等、二、菊池武光、三、足利義政

十三、左ノ地名今ノ何縣(又ハ道廳)ニ屬シ如何ナル史蹟ヲ有スルカ

五稜廟、浦賀、嚴島

十四、左ノ人々ノ事蹟ニツキ知ル所ヲ記セ

支倉常長、新井君美(白石)

十五、明治六年ノ征韓論ハ何故ニ起リシカ

十六、我カ邦憲法ノ發布セラレハ明治何年カ

十七、弘安ノ役(元寇)

十八、南朝ハ天皇ノ御名前

十九、吉田松陰ノ事蹟

二十、左ノ地名ニ關スル著名ナル事蹟ヲ舉ゴ

一ノ谷、博多、江戸

二十一、左ノ各項ニ就キテ記述セヨ

一ノ谷ノ戰、北畠親房ノ事蹟、三、明治維新ノ三傑

二十二、左ノ各地ノ所在府縣名ヲ舉ケ其地ニ於テ起リシ歴史上著名ナル事蹟ヲ記セ

浦賀之浦 笠置山 吉野 關左原 浦賀

二十三、伊勢皇太神宮下熱田神宮ノ御神體ヲ何カ

三十四、四道將軍ニ付キ天記セヨ

二十五、佛教ノ傳來ヲ記セ

二十六、(イ) 都ヲ京都ニ奠ニスルシハ何天皇カ

(ロ) 藤原鎌足ノ事蹟

二十七、源氏ノ三代ニシテ滅ヒシ所以ハ如何

二十八、北條時賴ノ事蹟

二十九、(イ) 賤ヶ嶽ノ戰ト小牧ノ戰トハ誰ヤノ戰ナルカ

(ロ) 船上山ト櫻井驛トハ如何ナル史蹟ヲ有スルカ

三十、元寇ヲ略記セヨ

三十一、(イ) 參觀交代トハ如何カ

(ロ) 外様ト譜代トヲ説明セヨ

三十二、島原ノ亂ヲ記セ

三十三、寛政ノ治ヲ略記セヨ

三十四、日露戰爭ハ何故ニ起リシカ、

三十五、日本武尊ト聖德太子トノ事蹟ヲ記セ

三十六、壬申ノ亂ヲ略叙セヨ

三十七、(イ) 天長節ト記元節トハ如何ナル日カ

(ロ) 延喜天曆ノ治ヲ記セ

三十八、前九年ノ役ヲ略記セヨ

三十九、足利義滿ノ事蹟ヲ記セ

四十、豊臣秀吉ノ勤王事蹟ヲ記セ

四十一、關ヶ原ノ役ヲ記セ

四十二、幕府ノ變ヲ記ス

四十三、日本武尊ノ東征

四十四、左記ニ就キ知ル所ヲ記セ

一、北條早雲 二、太田道灌

四十五、左記ノ人名ニ就キ知ル所ヲ記セ

一、林子平 二、塙保己一

四十六、伏見鳥羽ノ戰

四十七、徳川光圀ノ事蹟ヲ問フ

四十八、寛政ノ治ヲ記セ

四十九、櫻田ノ變ヲ記セ

五十、征韓論其結果ヲ記セ

明治四十三年二月二十日印刷
明治四十三年二月廿四日發行

編輯兼 伊藤 壽一
行人兼

東京市牛込區市ヶ谷本村町廿七番地

印刷人 中村 貞臣

東京市麴町區紀尾井町三番地

印刷所 元眞社

東京市麴町區紀尾井町三番地



